

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

和歌山の 農業士

2016
3
March

地域農業をリードする熱き農業者達

第6号



はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培ったその経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や農業士会としての取り組みなどを盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

<巻頭言>

農業のもつ教育力	(和歌山県農業士会連絡協議会 副会長 山崎 佳彦)	1
産地から頼られる試験場として	(和歌山県農業試験場暖地園芸センター 所長 森下 年起)	2

<私の農業>

農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

自分のやりたい農業をする！ ～ 女1人のゆるゆるハッピー農業 ～	(海南市 地域農業士 藤坂 奉子)	3
ほんまもんを目指して ほんまにうまい農産物を届ける ～ 有機農業を始めて28年 ～	(紀の川市 指導農業士 北田 多賀男)	5
限界集落の活性化をめざして	(高野町 指導農業士 井阪 晴美)	7
花きを主体とした複合経営 ～ スプレーマムとともに28年 ～	(有田川町 指導農業士 中井 理自)	9
世界農業遺産に認定された「みなべ・田辺の梅システム」をこれからも ～ かけがえない仲間と ～	(みなべ町 地域農業士 中本 憲明)	11
安定した生活のできる農業を後継者に ～ 経営移譲して10年目 ～	(田辺市 指導農業士 桐本 久子)	13

<農業に懸ける想い>

青年や新規認定者が、農業への熱い思いや取り組みを紹介

規模拡大で経営安定を目指す	(和歌山市 青年農業士 高岡 政充)	15
桃の高品質栽培に向けて	(紀の川市 青年農業士 前阪 喜之)	16
これからの農業	(かつらぎ町 指導農業士 尾西 智子)	17
期待に応えるみかん作り ～ おいしいみかんを届けるために ～	(湯浅町 青年農業士 畑 拓志)	18
仲間と一丸となって！	(御坊市 青年農業士 芝本 貴史)	19
人と人との繋がりを大切に	(田辺市 青年農業士 番平 奉文)	20

<県農業大学校学生です。>

農業大学校1年生の自己紹介&近況報告(第2回) 21

竹村直樹	東口央	福岡法弘	古谷晃司
堀真人	松坂太暉	松本啓吾	水原佑輔
溝川美樹	南那智	南坂壮一郎	山本裕生
和佐望			

巻頭言

農業のもつ教育力

和歌山県農業士会連絡協議会

副会長 山崎 佳彦



あまりに多い米飯給食のごはんの残飯を見て、これではあかと取り組んだ糸我地区の「田んぼの学校」は、今年で16年目を迎えます。

2000年以上もの昔から、日本人の生命を支えてきた「お米」。その稲作を通して今の日本人があり、日本独自の文化や精神が育まれてきたのだと私は思っています。

生活が豊かになり、スーパーには物があふれ、コンビニでは時間が来ればパンや弁当までもが廃棄される時代です。でも何かが違うのです、何かが足りないのです。

子ども達には、やはり「お米」のありがたさ、大切さをしっかり教え伝えていかなければなりません。

今では、その趣旨を理解して、多くの地域の方々が協力してくれています。子ども達と一緒に田んぼに種まきをし、育った苗を苗取り、田植えをし、又田んぼに入れるアイガモ・アヒルを卵からかえして育てたり、稲刈り・脱穀・出来たお米の販売まで子ども達がします。

その事自体は、子ども達の将来になんの役にも立たないかも知れませんが、心の底に根づいて行くと私は確信しています。

県下でも色々な地域で、様々な活動をされている農業士さんがたくさんおられると思います。農業体験というのは、教育の面から見ても、子ども達の成長にとっても、すごくインパクトのある事です。そんな機会をもっともっと増やしてあげて欲しいと思います。

最後になりましたが、「みなべ・田辺の梅システム」が昨年FAOの会議で“世界農業遺産”に認定された事は、同じ和歌山の農業者として誇りに思うと共に、ここまでに至った関係者の皆様のご努力に敬意を表します。さらに地元の皆さんと一緒に喜びを分かち合いたいと思います。本当におめでとうございます。

私自身は、あまり自慢出来る様な農業はしていません。この任期が終わると農業士会も卒業です。でも子ども達とのかかわりは一生続けていきたいと思っています。

残り1年余り、県農業士会の活動にも、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

巻頭言

産地から頼られる試験場として

和歌山県農業試験場暖地園芸センター

所長 森下年 起



農業士の皆様には、それぞれの地域でリーダーとしてご活躍されておりますことに心から敬意を表するとともに、当センターの試験研究にご理解とご協力を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。

さて、当センターは、日高、西牟婁地域などを中心とした園芸作物の振興をはかるため、昭和62年、園芸農業の最も盛んな日高地域に設立されました。設立当時の黒潮フラワーライン構想に基づき、カスミソウ、スターチスなどの試験研究を産地と密接に連携して進め、地元の花き産地づくりを支援してきました。

現在、日本一の生産量を誇るスターチス産地を支えるため、昨年、県オリジナル品種としては初となるピンク色の「紀州ファインピンク」をはじめ3品種を育成し、ラインアップが9品種となりました。また、スターチス農家の経営を圧迫する種苗費対策では、培養苗の低コスト生産技術についても取り組んでいます。野菜では、日高地域の主力品目であるエンドウについて、実エンドウ「紀の輝」、莢エンドウ「紀州さや美人」の新品種を育成し産地に導入されています。現在は、実エンドウの主要品種である「きしゅうすい」がハウス栽培で草丈が高く作業性が悪いため、短節間品種を育成しています。

昨年のTPP合意に関して、県内農林水産業への影響試算では、年間産出額が54.8億円減少し、うち最も影響が大きいのはかんきつ類で35.7億円の減少が想定されています。野菜類については、農林水産省の影響分析でも元々の輸入関税が3%と低い品目が多いことに加えて、日高地域のミニトマトに代表されるように高品質ブランド化により輸入品とは差別化され、すみ分けができていることから影響は少ないと言われています。しかし、長期的には価格低下が懸念されるとしており、私たち試験研究機関には、高品質化による価格アップのための新品種や生産技術開発等が求められています。

試験研究機関が取り組む研究テーマは、生産現場等の声を反映させるため、一般の方や農協の関係者等から広く募集しています。農業士の皆様方からも「こんな品種ができないか」、「こういう技術がほしい」といった忌憚のないご意見をお寄せ頂ければ幸いです。そのような声を基に、産地から頼られる試験場として、生産者の所得向上につながる新品種の育成や高品質生産技術、低コスト化・省力化技術、温暖化対応技術等の研究に取り組んでいきたいと考えています。

最後になりましたが、農業士会の益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念いたします。

私の農業

自分のやりたい農業をする！ ～ 女1人のゆるゆるハッピー農業～

海南市 地域農業士

藤坂 奉子



1. はじめに

私は、平成10年に就農しました。

就農時は、父、母と共に梅や柿、また年末需要に向け万年青（おもと）や千両、千石豆も栽培していましたが、今は水稻と青ネギ等各種野菜を栽培しています。

労働力は私と母の2人で、仕事が休みの土日には夫も手伝ってくれていますが、農作業のほとんどを私1人で行っています。

2. 農業経営の特徴

私の住む海南市汲沢地区は、海南高原に位置する標高460mの中山間地で、単作大規模経営は難しいので、青ネギ等各種野菜の栽培を軸とし水稻との複合経営を行っているのが特徴です。野菜については、施設と露地での両方で栽培を行っています。水稻は漏水防止のため畦塗り機を、また、ハンマーナイフモアや給排水管を整備し、草刈りや給水・排水の省力化を図っています。給排水システム（右図）は機械好きな旦那の自作で、限られた水源を有効に活用できるため、重宝しています。栽培面については、環境への配慮・食味向上のため、主として有機肥料を使用し、除草剤などの農薬も極力使わない栽培にも取り組んでいます。慣行栽培に比べ労力はかかりますが、その分収穫の楽しみは大きいですね。

販売については、過去には市場出荷もしてしまし

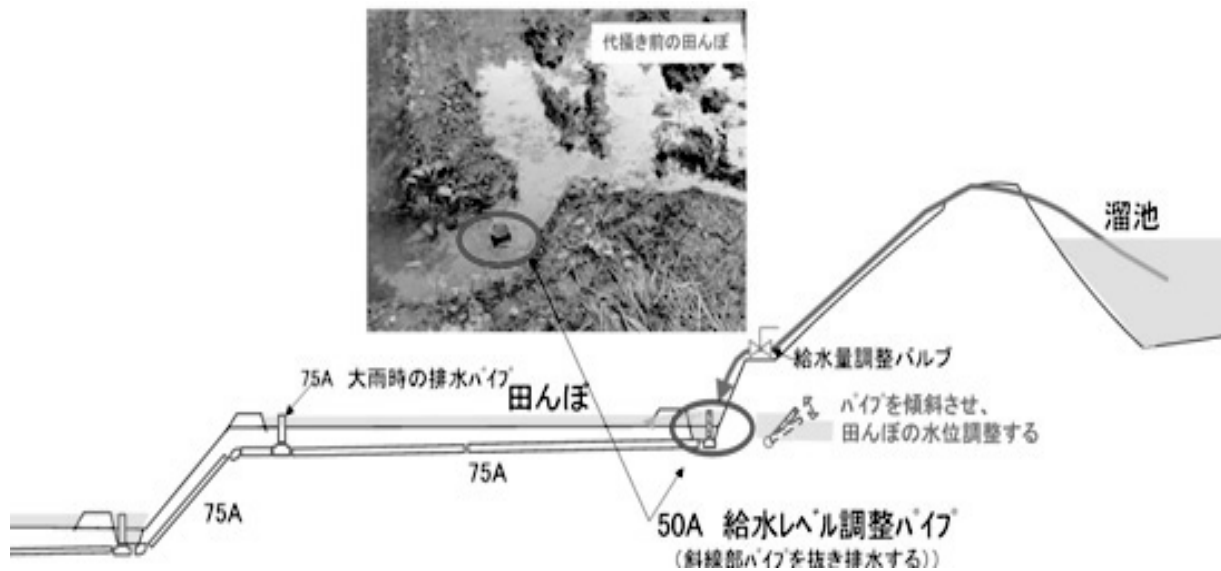
農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稻	50a
青ネギ等野菜	30a
○労働力	
家族労力	1(2)人

たが、今は主に私1人での作業であること、少量多品目栽培であることから、直売所へ出荷を行っています。一年を通じて様々な品目を栽培しているので、何度も購入頂けるお客様も増え、時にはお客様からご意見を頂いたり私の農業経営に活かさせて頂いています。



収穫作業中の筆者



旦那自作の給排水システム

3. 今後の経営方針

今は1人で好きなように経営していますが、夫が本格的に農作業ができる状況になれば、品目を少し絞り込み、特に青ネギについては経営規模も拡大できればと考えています。また、地域ではイノシシをはじめとした様々な野生動物による農作物被害も増えてきているので、安定した生産基盤を作るために鳥獣害対策も進めていきたいと考えています。

4. おわりに

皆さんは食育ソムリエってご存じですか？

野菜や果物の選び方、調理の仕方、栄養成分や保存方法などを消費者にアドバイスする資格のことです。「もの作り」とは「消費者が買いたいと思えるものを作ること」。消費者が買いたいと思えるような農作物情報を発信することも重要だなあと思い、平成21年に資格を取得しました。消費者の方とのコミュニケーションにも役立つのでオススメです。園芸福祉士の資格も持っていますが、同じ地域内に資格を持った方がいないので、もっと増えてきたら

これらの活動も展開できればと思っています。

さて、話は変わりますが私も就農して17年、地域の農業も風景もずいぶん変わりました。道沿いかからも耕作放棄地が目立つようになり、日も暮れると「ここは動物園か」という程多くの野生動物を見かけるようになりました。この先何十年農業ができるかわかりませんが、農地を維持し、良い状態で次の担い手にバトンタッチできるよう、健康に留意しながら頑張っていこうと思っています。

私の農業

ほんまもんを目指して ほんまにうまい農産物を届ける ～ 有機農業を始めて28年～

紀の川市 指導農業士

北田 多賀男



1. はじめに

昭和の高度成長期に育った私は、工業大学に入ったものの大学卒業の時は第一次オイルショックで日本経済は低迷していました。農家の長男である私は大学で習得した知識を生かした農業をして、こだわりのある農産物を作ろうと就農しました。当時、温州みかん景気は去り、桃、大玉ブドウ、キウイフルーツ等、高級フルーツの栽培が盛んで、我が家も桃、ネクタリン、ピオーネを栽培して、とても忙しい日々を送っていました。

特色のある差別化商品が台頭し、私も除草剤を使わず、微生物を生かして、大きく美味しい果物を栽培するという農法に取り組んでいました。

しかし、30年前、友人に紹介された有機農産物の消費者である女性と出会い、有機農業へ興味が出てきました。福岡正信氏の「自然農法 わら一本の革命」を読んでますます有機農業に傾倒し、1988年有機農業に転向しました。2000年に有機農産物の認証制度が始まり、認証取得し、2010年全部改正があり、再取得して現在に至っています。

2. 農業経営の特徴

有機農産物とは、3年以上化学肥料、化学農薬を使わない圃場でできた農産物のことを言います。それは有機農産物の日本農林規格に農産物の生産条件や方法、使用できる肥料堆肥類や農薬等、自然環境と一体化した形で体系的に詳しく規定されていま

農業経営の概況

○作付品目と面積	
桃	25a
スモモ	20a
柿	8a
イチジク	5a
たまねぎ	20a
他野菜類	20a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	若干名

す。認証取得には栽培記録、肥料農薬種苗等生産資材の購入を証明できるもの、などの帳票類、有機生産マニュアル的な内部規定、有機農産物に格付けするための格付規定の作成等、沢山の文書作成がありますが、昨年、NORM（有機農産物生産工程管理



有機栽培ほ場

記録作成システム)が農林水産省から提供されて、これに毎日の農作業等をパソコンに打込むことで随分文書作成が緩和されてきました。

雑草管理はもちろん除草剤は使えません。果樹は刈払機、ロータリーモア、フレールモアで草刈り、野菜畑では黒マルチや防草シートを使用しています。数年前まで除草のため山羊を飼っていました。肥料は好気性のVS菌で発酵したばかり、HDM堆肥、かきがら等を使っていますが、化学物質が入っていないことを証明するメーカーの文書が必要です。農薬は、すももにはボルドー液と毛虫が大発生した時にBT剤(バチルス・チューリングエンシス菌の生物農薬で、所謂害虫と言われている蛾・鱗翅目の幼虫にだけ効果がある農薬)、桃の縮葉病にボルドー液、モモシクイ、ナシヒメシクイに交信攪



合成フェロモン剤



防草シート

乱する合成フェロモン剤、モモノゴマダラメイガには生物農薬のスピノサド、吸汁蛾には黄色防蛾灯を使用しています。アブラムシは葉を巻いてしまうモモアカアブラムシと葉の裏にびっしりと驚くほど沢山付くモモコフキアブラムシの発生がありますが、有機栽培で使用できる効果的な薬剤はありません。しかし、土着天敵のテントウムシ、ヒラタアブやクサカゲロウの幼虫が集まってきてアブラムシを食べ、土着のアブラバチがアブラムシに卵を産み付けていき、桃のアブラムシの大発生が阻止されます。イチジクのクワカミキリにはボーベリヤ菌を、柿の毛虫、イラガ、ヘタムシには登録のあるBT剤を使用しています。野菜には、害虫の大発生がない限り、基本的に農薬は使用しません。今年から、野菜の畝間やいちじくの畝間に防草シートを張って雑草の発生を防いでいます。

3. 今後の経営方針

沢山の品目を栽培してきましたが、高齢化してきた今、労力が多く必要な野菜を減らし、果樹に主力を転換しています。現在、おいしいと好評の玉ねぎの宅配便を使った個人販売が伸びており、それに合わせて、以前行っていた桃の個人販売を復活しようと思っています。また、イチジクをもう少し広げてゆこうと思っています。春から初夏に集中する作業の分散を考えて、柑橘の栽培を取り入れ始めています。一年を通じて、栽培体系を見直しています。

4. おわりに

近年、若い就農者に有機農業を目指す人が増えてきています。

ほんまもんを沢山の消費者に届くように、持続できる循環型農業(土より生まれて土に帰る)を目指して、生物の命の根源である「食」について考え、人に良い・おいしく安全な食物を作り続けてゆきます。

私の農業

限界集落の活性化をめざして

高野町 指導農業士

井 阪 晴 美



1. はじめに

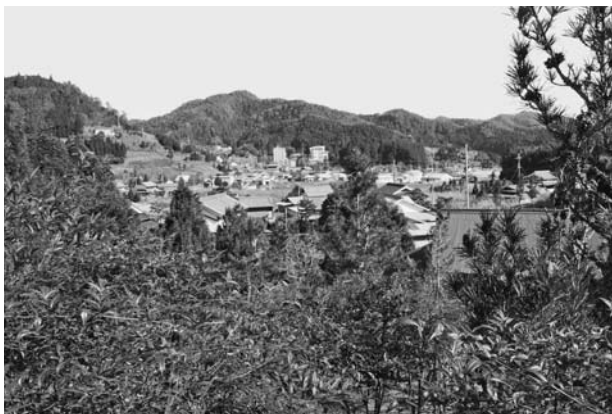
私の実家は米農家でしたが、私が若い頃、金融機関に勤めていたので農業経験がなく、実家の農作業をたまたま手伝う程度でした。

ところが嫁いだ先が兼業農家で、主人と義父は勤めていましたので、義母の指導で田と畑を守ってきました。

当時は水田 60a、茗荷 20a、野菜 10a を栽培していたのですが、両親も徐々に衰え、少しずつ水田の作付けも減らし、畑には高野槇を植え、現在の経営面積になってしまいました。

標高 630 m の周りが山に囲まれた盆地、夏は涼しくて夏野菜が良く育ったのですが、温暖化や異常気象の影響で病虫害が多発し、以前のような野菜作りが困難になってきました。

そこへあらゆる鳥獣が出没し、作物を食い荒らす



富貴地区の集落を望む

農業経営の概況

○作付品目と面積	
水稻	40a
茗荷	20a
野菜	10a
高野槇	40a
○労働力	
家族	2(3)人

ようになり、維持管理に苦勞しています。田には電柵・ネット、畑にはワイヤーメッシュ・電柵を二重三重に張りめぐらし、その囲いの中で何とか高野町特産「富貴の茗荷」を栽培し、品質の良い茗荷を守っていこうと頑張っています。

以前、茗荷栽培は 300 戸近い組合員がいましたが、時代と共に高齢化が進み、今では 13 戸に減ってしまいました。小規模な農家で組合員は少ないですが、何とか組合を存続して行こうと必死です。

2. 農業経営の特徴

茗荷の販売は、JA を通して大阪、京都、名古屋方面に出荷されます。又、二年程前から京都の漬物屋と契約できたのですが、注用量を用意できず非常に残念な思いをしています。

茗荷は、殆ど無農薬で土地が適合すれば一度植えておくと四十年、五十年も育ちます。主な管理作業

には、草引きと敷わら、間引きの作業があります。

茗荷には柔らかい特徴の夏茗荷と色鮮やかな秋茗荷があり、収穫時期は、夏茗荷が7月下旬から10月上旬、秋茗荷が8月末から10月上旬です。

昭和50年頃は町内での栽培面積も多く、高値で収益も多かったのですが、他の地域でも茗荷栽培が一般に普及されるようになってから、価格が不安定になりました。後継者も育っていないので栽培農家が激減する中、今栽培している13戸の農家で頑張っています。



高野槇と茗荷畑



南天の切り枝

3. 今後の経営方針

○水稻栽培

米作りは山の谷水を利用して、堆肥施用、基準どおりの農薬散布等により、安全で安心なお米の生産

に努めています。米は殆ど地元で消費されますが、高齢化に伴い米の消費が減り、価格も安いので、米の作付面積を減らし、野菜栽培への移行や学校給食等への食材提供も考えています。

○野菜栽培

茗荷は、赤く着色した綺麗なものが良いとされ、収益性が高いので、赤くして秀品率を上げる栽培法を色々試して行きたいと思っています。

また、野菜作りは茗荷の他には、キャベツ、白菜、大根、ブロッコリーなどを栽培し、地元の市場へ出荷しています。以前、マコモダケやコゴミの栽培もしましたが、販売先の確保に苦労しました。

富貴のエンドウは、通常より遅い5月下旬以降に収穫できることから、平地ものがなくなる頃から出荷でき、高値で取引されます。今後、この高冷地での気象条件を活かして、収穫時期をより遅らせた栽培に挑戦したいと考えています。

4. おわりに

後継者がなく先の見えない農業ですが、九十歳近い義母と七年前に退職した主人と3人で、天候に左右されながらも、毎年一年生のつもりでその土地にあった作物を栽培していきます。また、遊休農地が増えないように営農関係の方の助言を頂きながら地域全体で見守りを行い、農業にやる気を持ち続け、収益向上に努めたいと思います。

昨年、農業生産法人アコモファーム紀州（有田川町）が事業拡大に伴い、富貴地区でワイン用のブドウ栽培畑10aの開園に力を入れて頂きました。また、今年、新たに遊休農地20aを再生して頂けるようになっています。

今後も地域の方が農業に興味を持って頂けるよう微力ながら頑張りたいと思います。

私の農業

花きを主体とした複合経営 ～ スプレーマムとともに 28 年 ～

有田川町 指導農業士

中井 理 自



1. はじめに

私の農業経営は、スプレーマムの施設栽培とみかんとカキとの複合経営を行っています。大学を卒業して3年間は大阪で会社に勤め、長男でもあったことから退職して昭和58年に就農しました。

私が就農した頃は、両親が温州みかんとシシトウを栽培していましたが、カキとスプレーマムに切り替えてみかんを減らして、平成9年頃に現在のような経営内容となりました。

2. 農業経営の特徴

有田の農家は温州みかんが主体ですが、うちはスプレーマムを主体としたみかんとカキの複合経営で、労力の配分を考慮しながら年間を通じて収入があるような経営にしています。

就農してからは、「父とは違うものを作りたい」という思いで色々勉強し、昭和62年に県内で栽培が始まったばかりのスプレーマムをやってみようと栽培を始めました。

当初は3人の仲間達と手探りで始めたわけですが、栽培方法や品種の選択、販売方法など色んな課題があったので、普及センターやJAの職員さんらと一緒に取り組みました。

その後、平成元年に当時の有田中央農協が「花卉部会スプレーマム部門」を立ち上げ、共同で出荷する体制や生産技術を研鑽する体制が整い、今日の基

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	60a
（品種）早生	30a
中生	30a
カキ（平核無）	60a
水稻	30a
スプレーマム（施設）	30a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	3人

礎が築けたと思います。この頃からスプレーマムに取り組む若い農家が増えて部会にも活気が出てきました。

現在では、県のスプレーマム研究会での研修会参加や各地の生産者との情報交換を積極的に行った



スプレーマムと筆者

り、品質の良いものを作ろうと、JAありだの部会でも定期的な園地巡回や品種の検討などを行っています。



部会での園地巡回

スプレーマムは洋花系ですが仏花のイメージがありますので、母の日やブライダル、誕生日などのギフトでももっと使ってもらえるよう、機会があれば花屋さんや市場関係の方などに提案しています。

JAありだの部会でも市場と一緒に、「母の日参り」や消費拡大キャンペーンで大阪や京都へ行きイベントに参加しています。イベントではお客さんに栽培や花のことなどを説明すると、色の好みや使い方などを直接聞けるので、今後の販売や品種導入の参考にしています。

昨年、44年ぶりに和歌山県で「紀の国わかやま国体」が開催されましたが、閉会式に県内産の花で作ったブーケを持って選手団に行進してもらおうという提案をし、県農やJA、県、アレンジメント協会など関係者の協力を得て、花育の一環として有田川町と御坊市の小学校で子ども達に作ってもらいました。ブーケを作るのが初めての子がほとんどで「作るのが楽しかった」

と喜んでくれたこと、そして閉会式で選手の皆さんが、子ども達の作ったブーケを持って行進する姿を見て、スプレーマムだけではなく和歌山で作った



国体で使用したブーケ



子ども達とブーケ作り

花をたくさんの方に知ってもらう良い機会であったと感じました。

3. 今後の経営方針

これからもスプレーマムを主体とした現在の作付体系を続け、経営面積や労力配分は今のままで維持しつつ、より良い花作りに取り組んでいきたいと思っています。

そして、今後、息子が就農してくれるようであれば、様々なサポートをしてやりたいと考えています。

4. おわりに

今後も和歌山の花の振興のために、また農業士として、若い農業者への指導を通じて地域農業の発展に微力ではありますが、貢献していきたいと思えます。

私の農業

世界農業遺産に認定された 「みなべ・田辺の梅システム」をこれからも ～ かけがえない仲間と ～

みなべ町 地域農業士

中本 憲明



1. はじめに

私は、昭和63年3月に南部高等学校を卒業し三重県にある野菜・茶業試験場（現・野菜茶業研究所）に2年間研修生として在籍し、洋ランや鉢花、切花を学びました。

卒業してすぐ実家の農業を継ぎ、親を手伝いながら、当地元の若い後継者が多く取り組んでいたカスミノウやスターチスを自分の担当として栽培しました。

当初はバブル期最後で景気がよく、花も高値で取引されていましたが、バブル崩壊と共に少しずつ価格もそんなに高値が望めなくなり「前はよかったけど」と言うのが口をついて出るようになっていました。

しかし、梅景気はまだ右肩上がりであり梅にもっと力を入れるようになったものの、当時家の梅畑は今の半分位の面積で、なかなか思うように規模を拡大することが出来ませんでした。

その頃、県のヨーロッパ研修に参加させてもらい、



うすいえんどうのほ場

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	410a
うすいえんどう（露地）	25a
絹さやえんどう（ハウス）	10a
ミニトマト（ハウス）	4a
キャベツ	25a
○労働力	
家族	3人
常時雇用1人、臨時雇用4人	

大規模施設園芸で雇用を確保し家族労働ではない農業経営を見る機会があり、当時の若い自分にはとても魅力的に映り、いつかこういう農業をしたいと思うようになりました。

その後、地元のパイロット事業で出来た海沿いの畑に、うすいえんどうを作付けし、梅とうすいえんどう



ミニトマトの収穫

の二本柱で臨時雇用を入れながら規模を拡大していく農業経営をしてきました。

2. 農業経営の方針と現況

自分の目指す農業経営は、先で書いたヨーロッパ研修で見たような家族経営ではない何かあっても持続していける農業を目標にしています。

現在の経営状況は、大黒柱であった梅栽培が梅産業の頭打ちで経営がきびしくなってきたため、収入と雇用の確保等を考え、ハウス栽培での絹さやえんどうを導入し、常時雇用も導入しました。また、今年度からはJAのキャベツの契約栽培と昔からチャレンジしてみたかったミニトマトの栽培を面積は少しですが取り組み始めました。

しかしながら、経営的には臨時、常時雇用者の給与の支払いや、いろいろな設備投資への出費も多く自分や家族が主に動かなければ成り立たない状況です。

さらに作物に対しては自分の目が届き、きちんと手をかけ、いきとどいた管理をしたいことや、もっと効率も上げたいなど、相反する事もあり、両方うまくバランスがとれず歯がゆい思いをして試行錯誤しています。

3. 今後の経営方針

今後は、絹さやえんどうの作付けからミニトマトの作付けに変えていき、梅干し選別作業と合わせ年間を通した雇用を生み出し、常時雇用を増やすことが出来るよう模索して行こうと思っています。

梅については改植を進め、出来るだけ反収をあげるようにしていきたいと思っています。

それらと平行し、自分の代わりとして一通りの仕事をすべて任せられる雇用者を育てていきたいと思っています。

最終的な理想は地に足を付けたしっかりした経営と効率を重視した回転型の経営をあわせたような農業経営で、いろんな方のアドバイスをいただきながら、努力して目指していきたいと思っています。

4. おわりに

この地域の梅産業は現在かなり厳しい状況ですが、世界農業遺産にも認定された梅システムを次世代に繋ぐことができるようみんなで協力しながら守り続けていきたいと思っています。

そのために私達梅農家も梅のPRを積極的に実践し、より多くの方々に梅のよさを知っていただき、少しでも消費をのばす事につながればと思います。

下の写真は世界農業遺産に認定されたことをPRするため配布用の白干し梅を用意している様子で、その下のものは昨年県外のみなベファンと地元のみんなが協力して作り上げたイベントで、ギネス世界記録にチャレンジし世界記録達成したときのスタッフの記念写真です。

さらに、今年の2月21日には南高梅誕生50周年記念イベントとして県内外の高校生達と一緒に「UME-1 グルメ甲子園 in 梅の里みなべ」が開催されるなど、これからも梅産地全体で盛り上げて行きたいと思っています。



PR用1粒梅干しの配布準備



梅干しおにぎりでギネス認定

私の農業

安定した生活のできる 農業を後継者に ～ 経営移譲して10年目～

田辺市 指導農業士

桐本 久子



1. はじめに

私は高校卒業後、都会にあこがれて大阪で2年余り働きましたが、都会生活が合わず帰省して農家に嫁ぎ、農業と関わってきました。

その当時（昭和47年頃）は我家は米、みかん、梅、スモモを少しずつ栽培してました。面積も現在の半分位でした。それが梅干の価格が安定してきたのを機に少しずつ梅に代えていきました。

また、畑を購入したり、親類の畑を小作したりして、耕作面積が増えて現在に至っています。

2. 農業経営の特徴

夫と相談しながら、息子に経営移譲をする時に、安定した生活ができるようにと、省力化で効率良く働けるよう努めてきました。

○生産面での取り組み

資金を借りて園内単軌条を全園へ設置しています。以前は、霜対策に重油を燃やしに行っていたのですが、防霜ファンをつけたり、梅漬の設備では、倉庫、梅干し用ハウスを導入しました。また、作業の軽減を計る為に、フォークリフト、バックホー等機械の導入をしました。そして剪定枝を燃やしてはいたのですが、場所の良い畑では、シュレッダーして堆肥にできるようにと、チップperを買いました。次いで、効率の良い大きな型の物も購入し、太い枝もあっというまに砕きます。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	300a
マンゴー（ハウス）	2棟
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	6人

○販売・流通面での取り組み

梅干の出荷は、農協と業者さんとに分けていたのですが、現在は農協だけとなっています。売れる時は、どの業者さんでも引き取ってくれますが、農協は売れない時でも最後まで責任を持って引き取ってくれるからです。

また、JA紀南のSQFグループに入っています。



チップperで剪定枝を破碎

SQFとはセーフクオリティフードの略でフードチェーン全体を通して食品安全を管理し、品質システムを改善するために完成された認証プログラムの事です。



減塩梅干

平成20年には保健所で食品営業の許可をもらって、ほんの少しですが、減塩の梅干を個別販売しています。北海道のおにぎり屋さんで使ってもらっています。500g入容器が、やっと人気が出てきているとの事で、うれしいです。最近では、白干しの小分け販売を息子が始めました。

また、収穫時の忙しい時と重なりますが、手取りの完熟梅を頼まれて送っています。皮の柔らかいおいしい梅干ができると喜んでくれるのがうれしいです。

3. 今後の経営方針

梅づくり一本では難しそうですが、息子の考えに任せたいと思います。

私の希望としては、私達のように、息子夫婦にも二人で農業をやってってもらいたいです。そして私の役割だった簿記記帳(33年目)もそろそろパソコンタッチをしたいと思っています。

4. 終わりに

農業が好きでこの道に飛び込み、いろいろ苦しいこともありましたが、梅づくりで生計が立てられ本当に良かったです。

農業士女性部会で取り組んでいる梅干の販路拡大運動の一環としての出前授業で、梅干を使った料理を教えに行くという活動に楽しく参加させてもらっています。

農業士解除になるまで皆と楽しく過ごしたいです。これからは健康で野菜づくりを楽しみながら農業に関わっていきたいと思います。



中学校で梅の出前授業

農業に懸ける想い

規模拡大で経営安定を目指す

和歌山市 青年農業士

高岡 政 充



1. はじめに

20歳の時、大阪の梅田にある法律専門学校に通い、司法書士を目指しました。その当時1日15時間は勉強していたと思います。2年目からは半年間は農業、残りの半年間は勉強をしてトータルで5回は司法書士に挑戦しました。

26歳で父親が倒れて我が家の経営を継ぐため農業一本に切り替え、父が残してくれたデータをアレンジしながら野菜の規模を拡大し、露地野菜を中心とした農業経営を行っています。現在31歳、縁あってお嫁さんをもらうことができました。

2. 農業への思い 取り組み

私は就農当時、色々模索していました。ナスとハクサイ（父の代からの品目）を基礎に玉ねぎやズッキーニ、今まで作ったことのない品種のキャベツ等にも挑戦しました。支えてくれたのは地元の肥料屋さんや、農薬屋さん、種苗会社の人、海草振興局の人などで、たくさんの人にアドバイスをいただきながら、また、県内外の先輩農家さんとも繋がりを持つようになり、さらにフェイスブックに自分の農園のこと、私生活のことなどを投稿し色々な情報を共有したり、色々ご意見をいただいています。

今はナス、ハクサイ、キャベツを中心に少しずつ規模を拡大しています。農地中間管理事業に手を挙げているので、まとまった土地を借り受けできれば、

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ナス	70a
ハクサイ	100a
キャベツ	100a
○労働力	
家族	2人
常雇用	2人

もう一度こだわった玉ねぎ栽培に挑戦したいと考えています。

これからはさらに規模拡大と品質の向上、生産力アップを目標に、美味しい野菜づくりに取り組みたいと思います。



夏は露地のナス栽培に頑張ります

農業に懸ける想い

桃の高品質栽培に向けて

紀の川市 青年農業士

前 阪 喜 之



1. はじめに

私は、農林水産省農業者大学校（当時名）を卒業し、就農してから16年目になります。私がまだ学生の頃までは、果樹以外に稲作やたまねぎなど栽培していましたが、現在は果樹のみの複合経営をしています。

どの作物も1年を通し従事していますが、最も時間を要する桃の仕事に重点をおいています。

今、私はJAのこだわり桃部会にも参加させて頂いており、高糖度桃生産の為に徹底した栽培管理を行っています。

2. 農業への想い・取り組み

桃を栽培するにあたり、排水対策として去年も桃の改植をする際、ユンボで溝を掘り、暗きょパイプ等々を入れ排水設備を整えました。植えつけの時も、成木になるにつれ密植園にならないよう樹と樹の幅には十分に距離をとり植えつけを行いました。

今現在、収穫時期に運搬する際、全ての桃畑にモノレール（手動）を設置していますが、今後は面積が広い園地では園内道をつけていきたいと考えています。

また、自家の労働配分や土地条件などを考慮し、徐々にではありますが新品種の導入も推進していきたいと思います。

5年ほど前に植えた“つきあかり”という品種も食味良好で、糖度も高く果皮も黄色で見た目も良い為、今後さらに面積を拡大し量産していきたいと考えています。

まだまだ未熟ではありますが、同じグループの農業の大先輩方やJA職員の方のアドバイスを取り入

農業経営の概況

○作付品目と面積	
桃	75a
柿	50a
温州みかん	90a
晩柑類	10a
○労働力	
家族	3人
臨時雇用	3人



新しく改植する園地



優良品種“つきあかり”

れ、日々切磋琢磨し、未来ある農業を有言実行出来るよう努力を惜しまず頑張っていきます。

農業に懸ける想い

これからの農業

かつらぎ町 指導農業士
尾西 智子



1. はじめに

私は嫁いできて38年になります。実家は農家でしたが、農業の事は何もわからないまま農家に嫁いで来ました。嫁いだ時は、主に義父と義母が農業をしていました。私も子育てしながら少しずつ農業の事を習って来ました。

2. 農業への想い・取り組み

私達夫婦が農業を始めた頃は、富有柿を栽培していたので、収穫時期が串柿づくりの作業と重なるため、早生柿の「刀根早生」に高接ぎしてもらいました。また、晩生柿の「平核無」も少しずつ早生品種に換えていきました。

秋にはあんぽ柿や串柿の加工があるため、労力配分を考えて夏果実の梅や李の栽培も始めました。あんぽ柿は、20年程前から近所の3戸で始めました。

その後、徐々に生産農家は増えました。お正月の飾り需要としての串柿は、生活習慣の変化に伴い大幅な需要の増加が見込めないことから、本格的にあんぽ柿製造に切り替えました。

最初は皮むき機の調整や果実乾燥機の温度調整に大変苦労しました。特に、あんぽ柿の仕上がりの色や硬さ（軟らかさ）にはわずかな温度・湿度が影響します。

今では、乾燥機を増設し、臨時雇用を入れてあんぽ柿製造に力を入れています。

一方、我が家では今でも串柿の製造を続けています。今では、生産農家は高齢化により減ってきていますが、今までの伝統を受け継ぎ、皆様にお正月に使って頂ける串柿も心を入れて作っていきたいと思っています。かつらぎ町は柿の生産量が多いので、今後もあんぽ柿や串柿加工に利用していきたいと思っています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
柿「刀根早生」	55a
「四ツ溝」「アオソ」等	40a
梅「南高」	20a
李「大石早生」	15a
柿加工 あんぽ（生果 120t） 串柿（生果 18t）	
○労働力	
家族労力	2人
臨時雇用	15人（延べ50日）



剥皮果実をトレーに並べて乾燥の準備



乾燥後の果実の仕上がりを点検

農業に懸ける想い

期待に応えるみかん作り ～ おいしいみかんを届けるために ～

湯浅町 青年農業士

畑 拓 志



1. はじめに

私は大学を卒業後すぐに就農しました。就農当時、多目的スプリンクラーが1カ所、園内道は全くなかったため、整備を進め、現在では多目的スプリンクラーを3カ所、園内道は2カ所に設置しています。これにより運搬、防除がずいぶん楽になったので、その分さらに園地を借りて経営規模を400aまで拡大しました。

2. 農業への想い・取り組み

我が家の出荷形態は個撰共販で、昔から東京を中心とした市場出荷ですが、大学在学中からネット販売に興味を持っていたので、在学中にホームページを立ち上げて、就農後すぐにネット販売を始めました。

経営に占めるネット販売の割合はごくわずかなのですが、始めてから14年経ち、おかげさまで毎年買って下さるお客様も増え、食べた感想がダイレクトに返ってくるようになりました。「いつも美味しいみかんをありがとう」、「みかん作り頑張ってる」という声を聞いたたびに、「もっと良いものを作りたい!」と優良系統への改植やマルチシートの敷設、後期摘果等、みかんの高品質化に取り組んでいます。

シーズン中は、市場出荷用の荷作りが終わってから1人でネット販売用の荷造りをするので、体力的にキツイこともあります。「美味しいみかんを届けたい」という思いとお客様からの言葉が励みになっています。

市場に出すのもネットで販売するのも最終的に食べてくれるのはお客様です。買ってくれた方の期待に添えるみかん、いや、それ以上の美味しいみかんを毎年作り続けることがこれからの課題です。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州ミカン	300a
(極早生 10a, 早生 150a, 中晩生 140a)	
中晩柑 (清見等)	90a
ビワ	10a
○労働力	
家族	4人
常雇用 1人、臨時雇用 5人	



マルチシートを敷設した園地



設置した園内道

農業に懸ける想い

仲間と一丸となって！

御坊市 青年農業士

芝本 貴史



1. はじめに

私は、大学を卒業後すぐに就農し、今年で16年目を迎えました。就農前は、父親がスターチスとカスミソウを主体とした経営を行っていましたが、就農にあたり、新たな経営品目が必要と考え、周年出荷が可能で経営計画が立てやすいガーベラを導入しました。当初は10aの面積から栽培を始めましたが、その後、毎年10a程度のペースで面積を拡大し、現在に至っています。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
ガーベラ	100 a
スターチス	80 a
○労働力	
家族	3人
雇用	10人（うち常時4人）

2. 農業への想い・取り組み

就農して以来、切り花単価の低迷や重油価格の高騰等、経営には厳しい状況が続いています。このような中、私はこれまで施設の高度化を図ることで対応してきました。養液栽培システムを導入し、収量を増やすとともに、ヒートポンプも導入し、生産コストの削減に取り組んできました。また、ガーベラでは、花ひとつひとつをキャップでラッピングした後に出荷しますが、この作業に最も手間がかかります。そこで、労働時間を短縮するため、ラッピングマシンを導入しました。このように出来るだけ効率的な生産ができるよう心がけています。私は、これらの取り組みや栽培技術を農協の部会で出来るだけ共有するようしています。産地の発展には、仲間とともに部会全体を盛り上げていくことが重要だと考えています。

また、私は、農協の青年部の仲間とともに、「母の日参り」をすすめています。「母の日参り」とは、母の日に花を持ってお墓参りをし、今の私達へと繋がるすべての母に感謝し、家族の絆を深めてもらうおうという新しいスタイルのお墓参りです。仲間とともにこの取り組みを全国へ広げることで、花の消費拡大につなげるとともに花の持つ癒しの力を使っ



ガーベラのハウス



管理作業

て、よりよい社会作りに少しでも貢献していければと願っています。

農業を取り巻く状況は厳しいですが、同じ花を作る仲間と協力しながら、一丸となって現状を乗り越えていきたいと思います。

農業に懸ける想い

人と人との繋がりを大切に

田辺市 青年農業士

番 平 奉 文



1. はじめに

私は就農して10年目を迎えました。我が家は梅一本の経営をしていて以前は面積150aだったのが、私が就農してからは量と収益と品質を上げるため徐々に増やした結果250aまで拡大しました。また、農業士会はもちろん、JA青年部などに加入し他の部会員、JA職員との意見交換や親睦を深めたりして、人と人との繋がりを大切にしてきました。

今、梅は厳しいと思いますが、だからこそ梅宣伝隊に積極的に参加して都市部などへPR活動をしてきました。ピンチのあとにチャンスがやってくると思い、これからも家族で頑張りたいと思います。

2. 農業への想い・取り組み

私が就農したころは梅を作れば売れていました。そのころは漬け梅ばかりで、ここ近年、価格低迷・梅干しの消費低迷、生産過剰の影響を受け、梅干しの選別の徹底などをして南高青採り出荷、加工梅出荷などを始めました。

また、作業の効率化を考え剪定に力を入れています。薬剤がかかりやすくなるよう間を透かしたり、木を低めに作ったり、ネット敷きがしやすいようにしたりして、青採り収穫の時に脚立に4段以上登らなくても収穫ができるように取り組みました。今年から紅南高づくりに取り組み、摘心、摘葉をして見た目を良くし、少しでも付加価値を付けようと取り組んでいます。

農業経営の概況

○作付品目と面積	
梅	250a
(うち100aは借用地)	
○労働力	
家族	3人



作業効率を考え剪定



剪定後のほ場

今後は、複合経営なども視野に入れて一生農業で生活ができるよう新しいことにもチャレンジすることを忘れずにやっていきたいと思っています。

県農業大学校学生です。

～農業大学校1年生の自己紹介&近況報告(第2回)～

出身地は橋本市です。

私が農大に入った理由は、高校を卒業する間近になっても就職が進学か迷っていた私に母が勧めてくれたからです。

専攻は花きコースです。農大では色々な資格をとって、農業をしている人をサポートできる仕事に就きたいです。

残り約1年ですが、就職のために頑張って楽しい学生生活を送りたいです。



竹村直樹

.....



東口央

私の出身地は和歌山市です。

寮に入っていて寮生たちとの交流もあり、友達が増えて充実した日を送っています。

農大に入学したきっかけは母の勧めもありますが、なにより私は食べることがすごく好きで、農業は食に直接関わる仕事だと思ったからです。

私の家は非農家なので、農大で学ぶことはとても新鮮に感じています。何事も積極的に取り組みたくさん吸収しながら頑張っていきたいです。

将来の夢はまだ決まっていないので、今土台をしっかりと作っておきたいです。

.....

私の出身高校は紀北農芸高校です。高校では農業の基本的なことや、簿記や流通など様々なことを学びました。しかし、もう少し深く農業について勉強したいと思い、農業大学校に入学しました。

学校生活は、充実していて気の合う友達と話をするのが一番楽しいです。

将来のことは今のところ特に考えていませんが、自分のやりたいことを見つけて仕事に活かしていきたいです。



福岡法弘

私は両親のピーマン農業を継ぎたいと思い、和歌山県農業大学校に入学しました。

私は最初高校を卒業してすぐに就農したいと考えていましたが、農業大学校で農業のことを学ぶにつれ、知識の無い自分が家の仕事に参加しても迷惑になるだけだと思いました。

この和歌山県農業大学校に入学して1年が過ぎようとしています。覚えなければいけないことが多く、日々苦戦しています。ですが、苦手なことも積極的に取り組み、ここでの経験を就農した時に活かせるよう頑張りたいです。



古谷 晃司

.....



堀 真人

私の出身地は印南町です。

私がこの農大に入学した理由は、家が農家ということもありますが、農業に対する基礎知識や技能など何もわからないまま農業をするのは難しいと思ったからです。

農大での専攻コースは花きコースを専攻し、毎日全力で実習に取り組んでいます。

入学する前は休日などいやいや手伝いをさせられている感じでしたが、今では農大での実習の成果を活かし家に帰った日は進んで手伝いをするようになりました。

卒業したら農大で学んだ知識や技能を活かして立派な農業者になり、安全で安心な農作物を作って消費者の皆さんに喜んで頂きたいと思っています。

.....

私は、和歌山市の出身でありまして家が米農家なこともあり、農大へ入学しました。今の日本の農業事情が深刻なことも知っていたので、より強く農業を学びたいと思いました。

農大では、花、野菜、果樹の各コースがあり、私は果樹を専攻いたしました。米や畑作以外の世界に目を向けたいと思ったからです。友達も皆仲良く、正に理想の組です。この農大に入って後悔はしておりません。

これから、いろいろあるとわかれてますが、友達と共に乗り越えて参りたいと思っています。



松坂 太暉

僕は、この学校に入って思ったことは、高校に入るときに比べてひどく緊張しなかったことです。それは、僕でも素直になじんでいけるからではないかと思っており、この学校生活は続けていけると思っています。

この学校を卒業した後は、梅農家である自分の家を継ぎます。卒業できても不安なことばかり思い浮かびますが、がんばっていきたいと思います。

今はこの学校生活を後悔を残さないように過ごしています。



松本啓吾



水原佑輔

僕は今果樹を専攻しています。高校では三年間野菜を学んでおり、果樹の事は少ししか知りませんでした。でも先輩方や先生方の指導で、果樹の事について少しずつ知識を増やすことができています。

二年生になると僕は卒業論文でブドウの事をします。ブドウは先輩の卒業論文を手伝っていました。ですが、まだまだブドウの知識はないのでこれからも勉強して知識を増やしていきたいです。



私の出身地は有田です。

農大に入学した理由は、高校の時に農業を勉強していてさらに農業について知識をつけたいと思ったからです。

私は将来6次産業がしたいと考えています。その際農大で学んだことを活かしていけるように頑張りたいです。



溝川美樹



南那智

農業大学校に来た理由は、紀北農芸高校に通っていたからです。しかし高校2年生まではそのまま農業にかかわっていく気はありませんでした。高校3年生になりもう進路を決めないといけないなと思い、せっかく農芸高校で3年も学んだのだから詳しく学ぼうと考えました。

2年しかない大学生活の初めは咳喘息にかかり欠席が増えてしまい、有意義な生活を送れませんでした。しかし専攻で自ら選んだ花きコースで学んでいくうちに、心に余裕が生まれました。卒論のテーマも、ユリの2年目の球根の調査に決まり最近では順調に大学生活を送れています。

僕は和歌山市の出身です。

僕が幼い頃に祖母が畑に柿の木を植えていたけど、祖父が亡くなり、祖母が体調を崩し寝たきりになっています。そのため柿の木を世話する人が居なくなり、柿の木を全部切ってしまいました。僕は農大で柿の事を学び、将来は切ってしまった後にまた新たに柿の木を育てたいと思います。また消費者に喜ばれるような商品を作りたいと思い、農業についてまだ分からない事がたくさんあるため基礎から学びたいと思い農大を志望しました。

農大卒業後は、JAの営農指導員になり農業を営んでいる人やお年寄りの方に安全で楽な柿づくりを教えたいです。



南 坂 壮一郎

.....



山 本 裕 生

私の出身地は和歌山市布引です。

農大に入学した理由は2つあり、実家で農業をやっているからと、高校で農業を学んでいた時に農業が楽しいと思ったからです。

農大に入り楽しいと思ったことは、友達と寮生活を共に出来ることです。最近では、授業や実習も楽しく思えるようになりました。

最近では、私は体を動かすことが好きなので主に実習を頑張っています。

.....

私の出身は紀の川市の貴志川町です。

家は米を主にやっている兼業農家で農業に興味をもち農業大学校に進学しました。

農業大学校に進学してからは花きコースで花について勉強しています。

進学当初はなかなか友達ができず苦労しましたが、実習や研修などを通して多くの友達ができ、毎日楽しく過ごしています。

将来は農業機械の仕事につきたいと考えていて、仕事をしながら実家の米や、米以外の作物を育てていきたいと考えています。

作物を育てるのは決して簡単な事ではないですが頑張っていきたいです。



和 佐 望

試験研究レポート

REPORT

体外受精技術の高度化による不妊高齢雌牛の子牛誕生

和歌山県畜産試験場 大家畜部 主査研究員 谷 口 俊 仁

1. はじめに

黒毛和種繁殖雌牛の選抜・保留は、血統と発育が重視されてきましたが、近年、個々の雌牛の産肉能力（脂肪交雑〈＝肉の霜降りの度合い〉や枝肉重量など）を数値化した「育種価」も重視されはじめています。繁殖雌牛の育種価が判明する年齢は、早くても初産子牛が肥育され、枝肉格付けがわかる5才です。一方、雌牛の繁殖能力は加齢とともに低下し、多くの繁殖雌牛は10才前後までに淘汰更新されます。そのため、能力の高い雌牛を確実に次世代に遺すには、雌牛の能力が判明する5才から淘汰までの10才の間に雌子牛を生産し、次の世代の雌牛として育成する必要があります。高齢のため不妊となった雌牛は、高育種価であっても淘汰対象となってしまいますが、このような雌牛からも子牛生産ができれば、さらに効率的な後継牛生産が可能となり、熊野牛の改良に多大な貢献が期待できます。

そこで、平成24年度から26年度にかけて、牛の体外受精技術の高度化による高齢雌牛の子牛生産技術について検討をおこないました。

2. 試験研究の内容・結果等

(1) 雌牛へのホルモン処理による良質卵子の採取

体外受精に用いる卵子は雌牛の卵巣の卵胞内から注射針で吸引して採取（図1）しますが、品質の良い卵子を得るため、卵子採取前の雌牛に卵胞刺激ホルモンなどの注射方法や回数を検討しました。その結果、卵胞刺激ホルモンを皮下に1回注射することで、品質の良い卵子が採取できることがわかりました（図2）。



図1 雌牛からの卵子採取

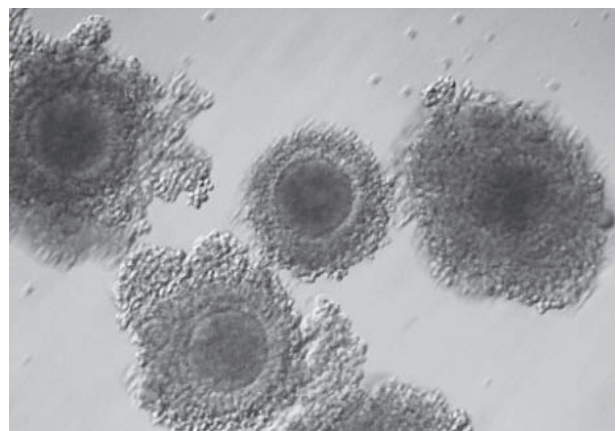


図2 ホルモン処理された雌牛から採取された卵子
(周囲の卵丘細胞の付着が良好＝高品質)

(2) マイクロウェルによる卵子の成熟培養

雌牛から採取された卵子は、そのままでは精子が受精できる状態ではなく、約 20 時間体外で培養することにより受精できる状態まで進めることができます。その受精できる状態までの培養を「卵子の成熟培養」といいます。卵子の成熟培養は通常では培養液の小滴にミネラルオイルなどを重層したものでおこないますが、近畿大学が開発した「マイクロウェル（卵子一つがちょうど入る円柱状の凹み）」(図 3) と呼ばれる培養容器で成熟培養をおこなうことで、体外受精後の培養効率が向上することがわかりました。

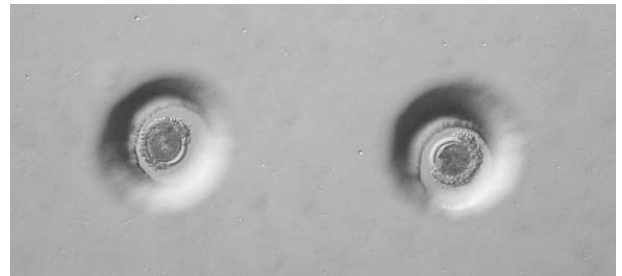


図 3 マイクロウェル内での卵子の成熟培養

(3) 体外受精卵の移植試験

上で述べた (1) と (2) の結果をもとに、高齢の雌牛を用いて実際に体外受精卵を作製し、受卵牛に移植をおこないました。この試験で卵子を採取した高齢の雌牛は、県内の和牛繁殖農家で飼われていた「ひでみ 4」という雌牛で、脂肪交雑や枝肉重量の育種価が県下トップクラスの牛です。体外受精卵の移植は平成 25 年秋から実施し、すぐに受胎例が得られ、平成 26 年 9 月 10 日に雄子牛（名号：「黒潮太郎」、生時体重 44kg）が誕生し、続いて 9 月 18 日には雌子牛（名号：「くろしおひめ」、生時体重 30kg）、さらに 11 月 6 日にも雄子牛（名号：「黒潮次郎」、生時体重 33kg）が誕生しました（図 4）。

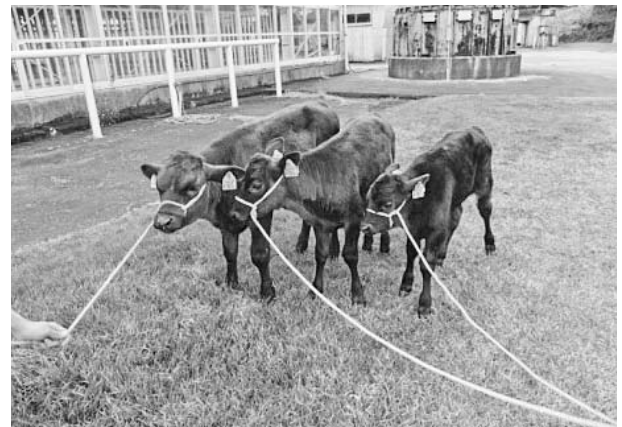


図 4 高齢雌牛由来体外受精卵による産子

3. まとめ

この誕生した 3 頭はいずれも発育は順調で、雄子牛 2 頭については去勢された後、熊野牛子牛市場で取引され、県内の肥育農家で肥育中です。どのような枝肉に仕上がるのか、非常に楽しみです。また、雌 1 頭については、畜産試験場で受精卵生産用の繁殖牛として飼うことが決まっており、平成 27 年 9 月に人工授精して妊娠を確認済みです。今後、優秀な受精卵や子牛の生産に活躍してくれると期待しています。

これらの技術が確立したことにより、県内農家で「高齢なので子牛が産めなくなってしまうけど、どうしてもこの雌牛の後継牛が欲しい」などという希望があれば、できる限り期待に応えていきたいと思えます。

試験研究レポート

REPORT

実エンドウの光合成産物の分配について

和歌山県農業試験場暖地園芸センター 園芸部 主査研究員 川西孝秀

1. はじめに

本県における実エンドウのハウス栽培では、近年、生育後半の草勢低下が問題となっています。実エンドウでは、葉や茎などの成長（栄養成長）と莢や子実の肥大（生殖成長）が並行して進行し、それぞれの間栄養競合が発生することから、この競合が草勢に影響する可能性が考えられます。そこで、基礎データとして、光合成によって作られる炭水化物がエンドウの体内でどのように分配されるか調査しました。

2. 試験研究の内容と結果

(1) 試験方法

植物は光合成により、光をエネルギーとして、水と二酸化炭素（CO₂）から炭水化物を作りだします。炭素（C）の安定同位体（少し重たい状態）である「¹³C」を用いて、標識の付いた二酸化炭素「¹³CO₂」を植物に与え、その後、植物体の各部位における「¹³C」の含量を測定することで、光合成産物（炭水化物）が、どこに移動したのか調べました。今回、品種「きしゅうすい」を20Lのポリポットで栽培し、慣行の開花促進のための電照を実施して試験を行いました。

(2) 開花節位の葉からの分配

開花期にあたる節位の葉で合成された光合成産物は、同節の花や2節上位の花蕾および成長点へと分配される傾向でした（図1）。1節上位の花蕾への分配はほとんど認められず、これは、エンドウの葉序（葉の付き方）が、2列互生（茎の1つの節に葉が1枚ずつ、互い違いに付く）であり、同じ維管束で繋がった部位へのみ移動するためと考えられます。

(3) 異なるステージの葉からの分配

光合成産物は、葉位によって分配パターンが異なり、いずれの節位でも同節の茎葉の維持・成長のために蓄積されると共に、①開花期にあたる節位で生成された光合成産物は、同節や上位の花蕾および成長点へと分配される、②莢の肥大期にあたる節位で生成された光合成産物は、大部分が同節の莢へ分配され、一部が

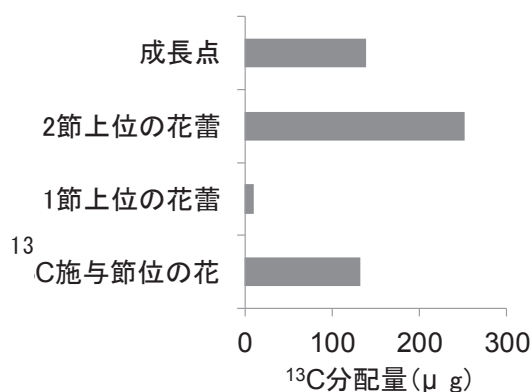


図1 開花節位の葉からの光合成産物の分配
2009年9月2日播種
第1花の開花期に第1花の節位の葉へ¹³Cを施与し、24時間後にサンプリング

成長点等へ分配される、③収穫後の節位で生成された光合成産物は、主に下位の側枝へ分配され、一部が成長点等へ分配される、④成長点は各節位から少しずつ分配を受けることが分かりました（図2）。

(4) 温度と分配

光合成産物は、日中適温の17.5℃と比較して、やや高温の23℃では処理節位の莢への分配割合が多く、上位節の莢・花蕾や成長点への分配が少なくなる傾向がみられました（図3）。

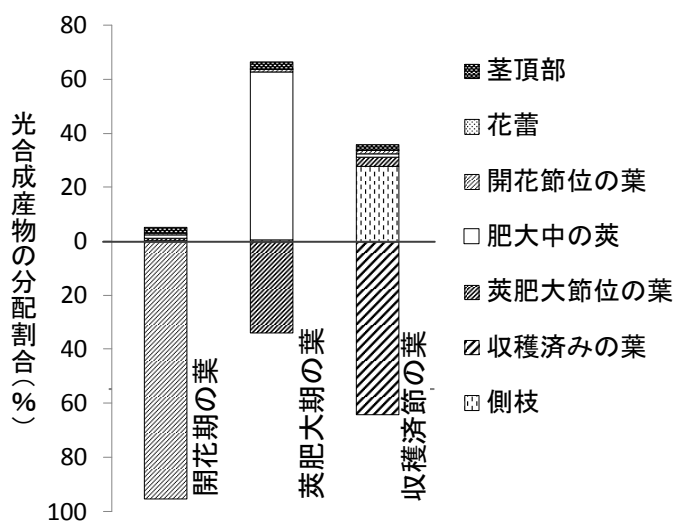


図2 異なるステージの葉からの分配
 (各調査部位の合計値を100として算出)
 2011年10月11日播種
 収穫期に、各節位の葉へ¹³Cを施与し、
 24時間後に各部位をサンプリング

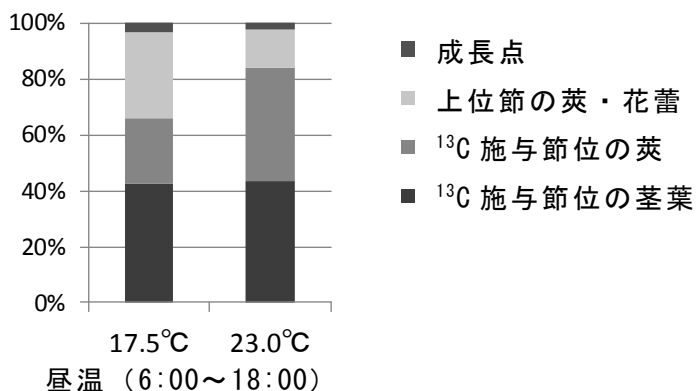


図3 異なる温度における光合成産物の分配
 2013年9月26日播種
 莢肥大中の節位の葉へ¹³Cを施与
 施与終了後に自然光利用型人工気象室内にて、各温度
 で管理し（夜温は5℃）、24時間後にサンプリング

3. まとめ

以上の結果、葉でできた光合成産物は、主にその節の莢や花蕾へ分配され、余剰分が偶数上位の莢や花蕾・成長点へと分配されること、また収穫が済んだ下位の葉からは、さらに下位の側枝へ分配されることが示唆されました（図4）。また、

高温条件では、莢への分配が増加し、成長点への分配が減少する傾向にあることが分かりました。今回、光合成産物の分配について、基礎データを紹介しましたが、現在、施肥養分の動態等についても調査しており、今後、これら基礎データに基づき、適切な栽培管理技術の確立を目指していきます。

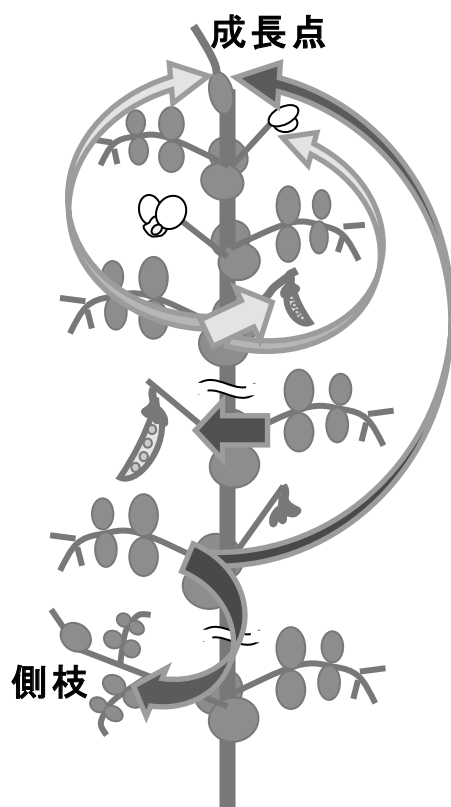


図4 光合成産物の動態の概略

試験研究レポート

REPORT

有田地方 50m メッシュ気温推定技術と活用について

和歌山県果樹試験場 栽培部 主任研究員 鯨 幸 和

1. はじめに

日高川町にある気象庁川辺アメダスの気温と有田地方の地形因子（注1）に基づき、有田地方の50mメッシュ気温を日別平均気温で $\pm 1^{\circ}\text{C}$ 以内、最高・最低気温で $\pm 1.5^{\circ}\text{C}$ 以内の精度で推定するモデルを開発しました（注2）。本欄では、この推定モデルをもとに作成したプログラムファイルを紹介します。

なお、これらのプログラムは果樹試験場ホームページ（<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/002/002.htm>）からダウンロードできます。

（注1）国土地理院の50mメッシュ標高データを使って、有田地方の全50mメッシュの地形的な特徴をあらゆる地形因子群（平均標高や平均傾斜、開放度など）を算出しました。

なお、「メッシュ」とは「網（あみ）」のことで、ここでの「50mメッシュ」は地図の上に1辺が50mの格子状の網を表示したものです。

（注2）開発にあたっては、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の手法（特許第4586171号）を活用しました。

2. 試験研究の内容と結果等

（1）50mメッシュ気温をマップで表示させるプログラム

2009年3月～直近で、カレンダーから選んだ日の50mメッシュ推定気温がマップで表示されます（図1）。



図1 50mメッシュ気温マップ表示（2014年11月8日の最高気温を例示）

(2) 任意で選んだメッシュの気温経過を表示させるプログラム

航空写真や地図上で選択した場所の推定気温の経過が、テキストやグラフで表示されます(図2)。また、緯度・経度を直接入力することで、調べたい場所を選択できるタイプもあります。

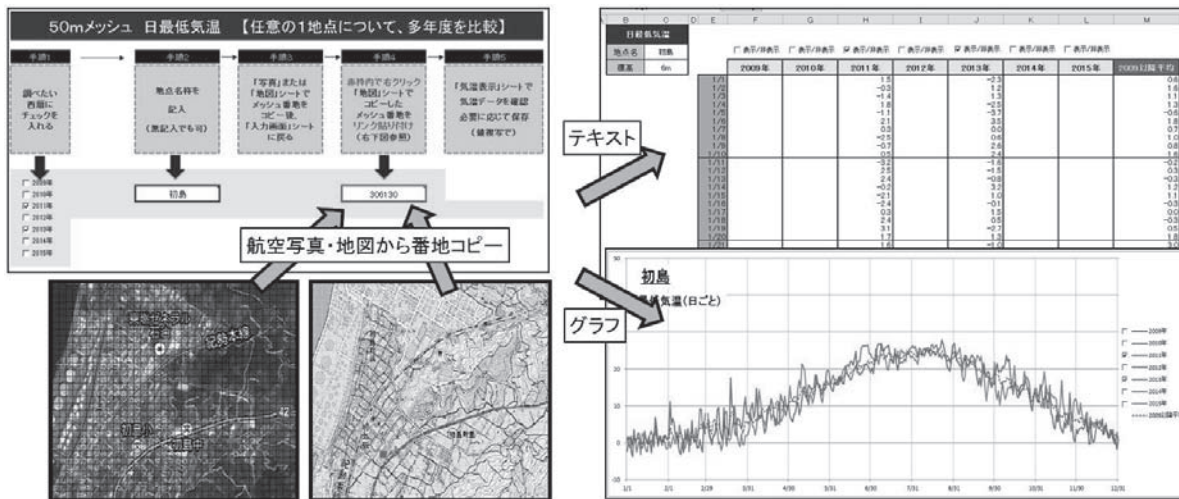


図2 任意で選んだメッシュの気温経過表示 (JR 初島駅付近の2011、2013年最低気温を例示)

これらのほかには、「いつ頃、どの地域でどれくらい冷え込んだのか」をマップ表示したり(図3)、春先の気温経過から4月20日時点で開花始期と満開期を予測(精度は概ね±2日)し、マップ表示するプログラムを作成しました。

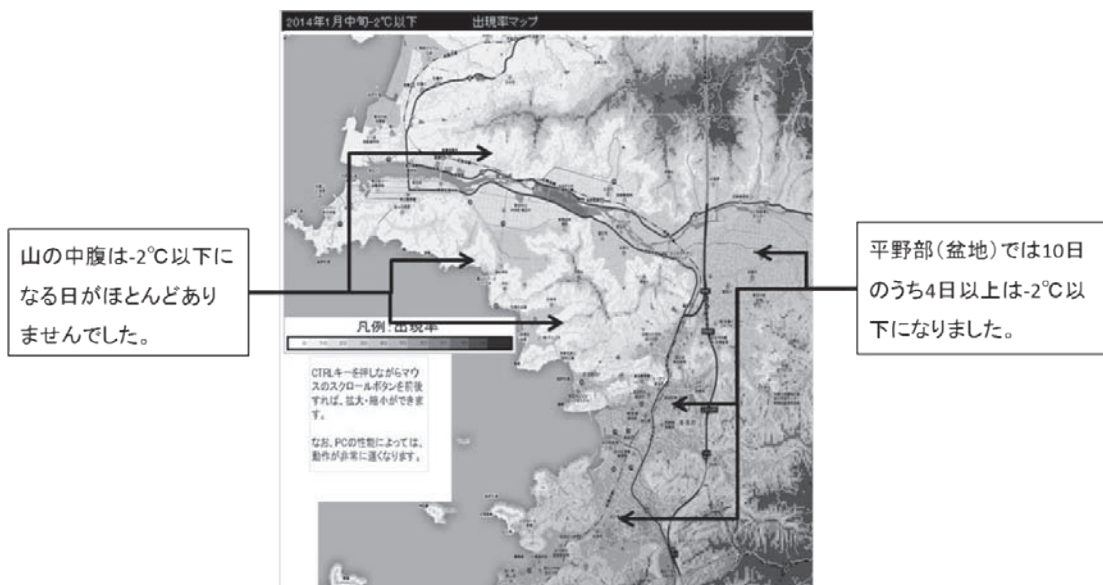


図3 冬期の最低気温出現率マップ表示 (2014年1月中旬の-2°C以下出現率を例示)

3. 今後の展開

「どの地域が冷え込む」というデータを積み重ねて適地判定の目安にすることや、様々な病害・虫害、生理障害発生危険度の面的な情報発信を目指します。また、カンキツ以外の果樹や野菜、水稻などでは、気温の経過から病害・虫害発生や生育を予測するモデルが数多く報告されていますので、様々な作物においてこの技術の活用を検討していきます。

地域の逸品!!

桃りゃんせ夢工房の 桃入り金山寺味噌

紹介者

紀の川市 指導農業士

稲垣 明 美

桃りゃんせ夢工房は、桃農家の女性達で構成されたグループで、紀の川市桃山町にあります。桃山町の桃は「あら川の桃」として全国に出荷されていますが、規格外の桃の活用として、加工や体験活動を行っています。

そのひとつに、「あら川の桃入り 金山寺みそ」があります。

1. 商品の紹介

「あら川の桃入り 金山寺みそ」は、名前のとおり「あら川の桃」が入っています。やわらかな桃は形をとどめるのが困難ですが、桃の品種や熟度を変え、塩漬けを繰り返し、3年かけて商品化しました。

桃はもちろん、漬けこむ野菜も地元で揃え、昔からの作り方で丁寧に作っています。

しっかり桃の入った「あら川の桃入り 金山寺みそ」は桃のエキスが全体にひろがり、ほのかな甘さが味噌の辛味を和らげてくれます。

22年にプレミアム和歌山の商品に認定されました。

他にも、会員が栽培したニンニクを入れた「にんにく入り金山寺みそ」があります。ニンニクのエキスがしっかり染み出していますが、ニンニク臭くなく、人気の商品となっています。

紀の川市内のファーマーズマーケットや、桃源郷運動公園内の学習体験館で販売しています。

2. お問い合わせ先等

桃りゃんせ夢工房（桃源郷運動公園学習体験館内）

〒649-6123 和歌山県紀の川市桃山町神田526-2

TEL/FAX 0736-66-3454

<http://www.touryanse.com/>



あら川の桃入り金山寺みそ



にんにく入り金山寺みそ

地域の逸品!!

地元食材にこだわった 手作り味噌とジャム!

紹介者

広川町 指導農業士

中西 敦子

1. 商品の紹介

広川町生活研究グループ加工部のこだわりは「本当の味」。自分達で作ったもの、地元で取れた農作物を使っているの、安全性には自信を持っています。

昔は「自分で作るもの」であった味噌も、最近では自分で作らない人が増えてきました。多くの人に「本当の味」を知ってもらうため、広川町産の米を使い、国産の材料を使って手作りした無添加で塩分控えめ「稲むら味噌」を平成23年から販売しています。平成25年9月から「稲むら味噌」は広川町の学校給食にも使用されています。

そして、平成27年11月「稲むらジャム」が新登場しました。広川町でとれた果物を使った手作りジャムで、「ブルーベリー」、「イチジク」、「いちご」の3種類。このジャムは果物、グラニュー糖、レモン汁だけで、果物本来の味を味わえるように作りました。広川町には、まだまだ色々な果物がありますので、新しいジャムも作っていく予定です。

これらの商品は、広川町観光案内所（稲むらの火の館前）、ありだっこ、広川ビーチ駅（ふれあい館）、ほとるの湯の4カ所販売されています。

また、個人にも販売していますので、食べてみたいと興味のある方は、是非、下記までご連絡ください。

2. お問い合わせ先

広川町生活研究グループ加工部

〒643-0063 和歌山県有田郡広川町
南金屋 244-2

「稲むら味噌」 代表 山本美智和 (TEL 090-3829-9071)

「稲むらジャム」 代表 中西 敦子 (TEL 090-5886-4556)



稲むら味噌



稲むらジャム



広川町観光案内所での販売

地域の逸品!!

「道の駅すさみ」の人気商品

さんま寿司・いも餅

紹介者

すさみ町 指導農業者

抜田 佐代



加工所にて

1. 商品の紹介

昭和 59 年、すさみ町太間川の自宅近くに加工所を開設し、農産物加工品の製造販売をしてきました。最近では息子の協力もあり、平成 27 年 9 月にオープンしたばかりの「道の駅すさみ」でさんま寿司やお餅を販売しています。道の駅すさみは、紀勢自動車道すさみ南インターチェンジ（IC）近くの国道 42 号沿いにあり、多くのお客様が訪れています。

人気商品のいも餅は、10 月～5 月まで販売しています。柔らかく程よい甘さが特徴で、さつまいもを搗きこんだお餅で自家製のあんこを包み、きなこをまぶしています。この他、ナチュラルチーズを搗きこんだ「チーズ餅」もおすすめです。切って焼いて、熱々を食べるのが一番美味しい食べ方です。

さんま寿司は年中販売しており、お寿司に適したさんまを仕入れて下さるに工夫をしているので臭みがありません。さんま寿司は、慶弔に欠かせない郷土料理として食べられてきました。すさみにお越しの際は、伝統の味をぜひご賞味下さい。

2. お問い合わせ先等

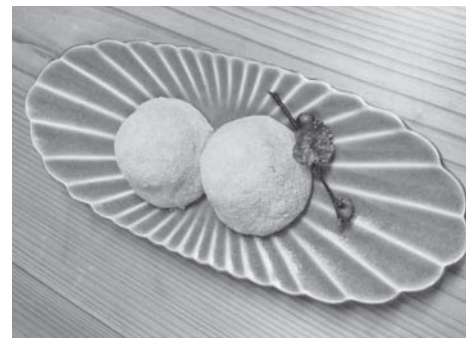
「道の駅すさみ」

住所 和歌山県西牟婁郡すさみ町江住 808 番地 -1

TEL : 0739-58-8888 FAX : 0739-58-8889

ウェブサイト <http://www.michinoeki-susami.com/>

(道の駅すさみで検索)



人気のいも餅



さんま寿司



道の駅すさみ

農業士会支部活動レポート

REPORT

平成 27 年度和海地方農業士会活動ダイジェスト

和海地方農業士会事務局

1. 総会及び講演研修会を開催

和海地方農業士会は、4月10日にガーデンホテル紀三井寺において定例総会及び、研修会を開催しました。

総会は会員、関係者60名の出席のもと、平成26年度活動経過及び平成27年度活動計画（案）とそれに伴う決算、予算（案）が議案書のとおり承認されました。また、役員改選については和歌山市の中居純三氏が会長に選任された。

総会終了後には、和歌山県果樹試験場環境部主任研究員の植田栄仁氏から「果樹試験場における鳥獣害対策について」講演が行われた。

講師の植田氏からは、農業被害をおよぼす加害獣のイノシシを効率的に減らすには、メス成獣を捕獲する必要があることや、これを効率的に捕獲するための電子トリガーを（株）タカショーデジテックと協力して製作し、その効果を研究しているなどの説明があった。



平成 27 年度総会



研修会

2. 女性部会が「農産加工」「野菜花きの試験研究」について研修

和海地方農業士会女性部会では、11月6日、県工業技術センターと県農業試験場で農産加工と野菜、花きの試験研究について研修を行った。

県工業技術センターでは県産果実を素材とした食品の加工技術開発や機能性成分研究などについて研修した。

県農業試験場では現在取り組まれている野菜・花きの優良品種の育成・選定や高品質生産技術の開発、低コスト・省力栽培技術の開発などについて研修を受けた。



農業試験場にて

農業士会支部活動レポート

REPORT

那賀地方農業士協議会女性部会 『カトレア会』の活動について

那賀地方農業士協議会事務局

【那賀地方農業士会 指導農業士 吉田 佳代】

1. はじめに

私は、平成13年に農業士に認定して頂き、はや15年が経ちます。

当然、那賀地方農業士協議会女性部会カトレア会にも籍をおいていたのですが、これまで何も考えずに過ごしてきました。

この度、カトレア会の活動についてレポートを書くに当たって、ふと那賀地方農業士協議会女性部会は、どんな由来から『カトレア会』と、なったのだろうかと思い、先輩に尋ねたところ『カトレア会』は、平成元年に女性農業士5人から発足し、カトレアのように美しく、気高く、凛として、地域農業のために指導していける知識や技術を身につけるために努力をする会。それを目指すために『カトレア会』と言う名前を付けたのだと教えていただきました。

何の自覚もなかった私には“恐縮”以外当てはまる言葉が見つかりませんでした。でも諸先輩方から引き継ぎ、この伝統を絶やすことのないように、女性の農業士でないとできない農業を生かし、たとえば、新規就農者が定着しやすい地域づくりやB級品農産物を利用した農産加工による地域ブランドづくりの取り組みなど、少しでも力になれるように努力しなければならないと認識した次第です。

2. 最近の活動について

(1) 業務用野菜流通研修会

1月20日に岩出市に本社のある藤本食品株式会社で、加工用業務野菜の扱い品目と生産地について研修しました。中でも、中国からの輸入野菜の使用があまりにも多く愕然としました。

それ以来、スーパーで加工野菜を見るのがつらく、どうして日本の流通は、私たち農家が生産する農産物をもっと有効に利用してもらえないのかという現実に失望し、何か農家の力を合わせて生産者から働きかけができないかと考えさせられました。



業務用野菜流通研修会

(2) 農業経営研修会

12月に農業経営の研修として、講師に長年、農家の指導に携わってきた税理士 辻 毅 先生をお迎えして、農業簿記と税務申告について教えていただきました。

簿記記帳は、税務申告だけでなく、経営分析及び経営改善に役立ててこそ意義があるとのお話の後、出席した会員が申告書作成時に疑問に思っていることなど様々な質問を行い有意義に過ごしました。



農業経営研修会

3. おわりに

毎年12月には、会員が講師となって恒例のフラワーアレンジメント教室を開催します。

新年を迎えるためのひとつのやすらぎの時間です。

現在15名で組織するカトレア会の活動は、このようにして、一年が過ぎていきます。



フラワーアレンジメント教室

農業士会支部活動レポート

REPORT

伊都地方農業士連絡協議会の活動について

伊都地方農業士会連絡協議会事務局

1. 総会・研修会の開催

4月14日、和歌山北部農業共済組合伊都支所において、伊都地方農業士連絡協議会（会長：海堀哲司）の総会を開催した。

総会では平成26年度活動経過、収支決算並びに平成27年度活動計画、収支予算が原案どおり承認された。また、役員改選で玉置成朝（九度山町）が新会長に選出され、承認された。

総会後の研修会では、高橋太一郎氏（高橋アグリビジネスクリニック代表）を講師に招き、「6次産業化への取組事例」と題してご講演をいただいた。



総会

2. 女性部会研修会の開催

8月31日、女性部会（会長：森脇佐太代）では、会員の親睦と情報交換を目的に、紀の川市桃山町のハグルマ株式会社及び畑下敷本農園（藤桃庵）において研修会を行った。

ハグルマ株式会社では名出課長から会社概要、食品に対する安全・安心のこだわり等について説明を受けた後、衛生管理の徹底された最新設備の工場内を見学した。

会員らは、身近な所でケチャップ、ソースなどの調味料が製造されていること、期間限定で地場産トマトが原料として利用されていることを学んだ。

藤桃庵では、自家生産の桃を使った果肉入りゼラート「桃みるく」等をいただき、園主らとの交流を行った。



ハグルマ株式会社



藤桃庵での交流

3. 県外研修会の開催

平成 28 年 1 月 22 日、会員相互の親睦、資質向上を図るため、西日本花き株式会社（大阪府泉大津市）及び細河植木産地（大阪府池田市）において研修会を実施した。

西日本花き株式会社では、最新コンピュータを活用した切り花の競りを見学後、藤倉常務から花き流通の現状（競りは全量の 3 割）、販売促進の取組について説明を受けた。

細河植木産地では、池田市地域活性課の紹介により細河植木塾（認定農業者）の生産者グループと交流し、花木類生産の現状等について説明を受けた。このグループは、河川敷を活用して見本園（200 種）を会員手作りで完成。正月用の五葉松をはじめ、数多くの植木や花木類を生産している。今回、異業種（植木生産）との交流で高齢化、後継者不足、獣害増加等、同様の問題を抱えていることを再認識した。



西日本花き株式会社



細河植木塾の生産者との交流

4. 経営事例研修会の開催

2 月 12 日、伊都振興局において会員の優良な経営事例を聞くことで経営能力向上を図ることを目的に研修会を開催。農業士、市町等の関係者ら 33 名が出席した。

始めに、伊都農業の今昔（森口課長）、農業振興と普及指導員のしごと（東浦 GL）と題した講話に続いて、指導農業士の池田泰子（橋本市）、森脇佐太代（九度山町）、水浦言仁（かつらぎ町）の順に自身の農業経営について発表した。

池田氏は十年程前に母の病気を契機に就農。5 年間、師匠につき施設ナス栽培の技術習得し、野菜栽培中心の経営に転換。学校給食等への食材を供給。今後も農業委員として遊休農地解消に尽力したいと述べた。

森脇氏は柿、施設桃等で約 2.5ha の果樹間複合経営を夫と共に従事。雇用労力を活用して営農。今後はさらに園内作業道を整備して省力化、軽作業化を進めたいと話した。

水浦氏は昭和 48 年に「ピオーネ」でブドウ栽培を開始。生協との交流から地域で観光ブドウに取り組み、規模拡大。その後、柿施設栽培を導入。直売、宅配中心に販売。現在、ブドウ品種「シャインマスカット」や「早秋」等の甘ガキ導入を進めていると説明した。

今後、伊都地方農業士連絡協議会ではこの様な研修会を通じて、会員相互の交流を活発にし、協議会活動により管内の農業振興に役立てていく。



発表者との意見交換

農業士会支部活動レポート

REPORT

有田地方農業士協議会の活動について

有田地方農業士協議会事務局

有田地方農業士協議会（伊藤博文会長）では、生産技術の向上と農業経営の発展を目指し、講演会や現地研修会を開催しています。

1. 研修会の開催

7月8日、県果樹試験場において研修会を開催し、管内各市町から農業士及び関係者併せて約70名が出席しました。

研修会では、はじめに十文字学園女子大学大学院 田中茂教授から「農薬散布時のマスクの適正使用」について情報提供がありました。続いて、和歌山大学観光学部 藤田武弘教授から「都市農村関係の変化と農村再生の可能性」と題して講演があり、出席した会員からは活発な質問がありました。



田中氏（右）の情報提供



藤田氏の講演

2. 合同現地研修会の開催（4Hクラブ）

9月15日、有田地方4Hクラブ連絡協議会と合同で、農業生産や加工、地域おこしなどの優良事例を学び、会員同士の交流を図ることを目的に、広川町において現地研修会を開催しました。当日は4事例について研修が行われ、約60名が参加しました。

1) 不知火施設栽培園

青年農業士の楠本大氏は、平成17年よりハウスミカンから転換した不知火の施設栽培に取り組んでいます。



不知火施設栽培園

11月中下旬から収穫しているとのことで、参加者からは果形の揃った不知火の着果状況を見て活発な質問が出ていました。

2) 獣害防護柵

広川町山本菅谷地内では、近年サルの被害が増加し、対策として平成27年3月に受益農家9戸で金網電気柵2.74km（ロール状金網2m、電柵4段）を設置しました。設置後はサル、シカ等による被害がなくなったため、安心して農作業ができるとのことでした。

3) じゃばら加工施設

広川町じゃばら加工組合で平成26年度に整備した加工施設を見学しました。同組合は、じゃばらの他にもイチジクなどの原料を、冷凍、乾燥、粉碎等を行い、乾燥粉末や粉末加工品（飴、入浴剤等）として商品化しています。

4) 津木寄合会の取組

津木地区の過疎対策と活性化を図るために設立された津木寄合会では、休耕田30aを活用したお花畑を開園しています。会では定期的にイベントを開催し、地区外から訪れた人にのんびりできる場所を提供しています。

この研修を通じて、栽培面に加えて加工や地域おこしで頑張っている優良事例を学ぶとともに、地域リーダーである農業士とこれから地域の担い手となっていく4Hクラブ員の交流を図ることができ、有意義な一日となりました。



獣害防護柵



加工施設内での説明



お花畑の見学

農業士会支部活動レポート

REPORT

日高地方農業士会の活動について

日高地方農業士会事務局

1. 花育活動

5月14日に日高地方花き連合会（会長：堀池 仁）と共催で「花育」活動を実施した。

この活動は、管内の小学生を対象に、花に親しみ、触れあう機会を通して、豊かな心を育ててもらおうとともに、当地方が全国有数の花の産地であることを知ってもらおうと始めたもので、今年で7回目となる。

花き連合会会員が無償で提供したスターチスや宿根カスミソウ、カーネーション等約1万本の切り花を花束にして、農業士会会員が管内の全33小学校（支援学校含む）全クラスに日高地方の花を紹介したパンフレットとともに届けた。

また、全校のうち4小学校（御坊市：野口小学校、印南町：清流小学校、みなべ町：岩代小学校、日高川町：山野小学校）においては、花束の贈呈式が行われ、生徒を前に両会会員が花束を手渡し、花の豆知識等について講話を行った。後日、生徒からは「花に興味がわいてきました。」「花を大切にします！」といった内容の手紙が届くなど、本年度の花育活動も大変好評であった。



花のお話



花束の贈呈、お礼の手紙

2. 県議会議員との意見交換会

7月30日に日高地方選出の県議会議員を招き、今後の地域農業のあり方等について意見交換を行った。

意見交換会では、野菜花き産地総合支援事業の継続要望や、梅産地の現状、6次産業化プランナーの育成、西川の浸水対策、基盤整備事業の活用、鳥獣害対策、わかやま紀州館の概要などについての意見が出され、活発な意見交換の場となった。



県議会議員と意見交換

3. 女性部会が現地研修会を実施

7月22日、女性部会が新宮市熊野川町で現地研修会を実施し、17名が出席した。

最初に、熊野川産品加工組合が運営する「かあちゃんの店」の店内を見学し、地元の食材を使った「かあちゃ

ん定食」を昼食にいただいた。

その後、JA みくまの熊野川営農センターで熊野川産品加工組合の竹田愛子組合長から「かあちゃんの店」が平成 27 年 3 月 1 日に新店舗で再オープンするまでの経緯について、話を聞いた。

平成 23 年の台風 12 号の水害で被災し、「かあちゃんの店」の再建は厳しいと考える組合員がいた中で、地元の女性や農業者の生きがいと地域の活性化のため、再建することを決意したことや「かあちゃんの店」が地元の人たちに認められるまで苦労したことや、応援してくれる人がいることが励みになり、多くの人に支えられていることを知ったと話された。

女性部会員から、「高菜を味噌で漬ける方法を教えてほしい」、「時給がいくら支払っているのか」、「人気商品は何か」などの質問があった。

当日は、大雨にもかかわらず、「かあちゃんの店」では多くの手づくり品が並び、店内を運営するかあちゃんたちの笑顔が素敵で、温かい気持ちになった研修会であった。



かあちゃん定食



研修会

4. 第 29 回地域農業を考える日高のつどいを開催

テーマ「活かそう女子力 地域づくりに！」

農業士会、生研グループ、4 Hクラブで組織する地域農業を考える日高のつどい実行委員会では、1 月 22 日、紀州農協がいなポートにおいて「第 29 回地域農業を考える日高のつどい」を開催し、会員、関係者約 160 人が出席した。

基調講演として、農林水産省経営局就農・女性課女性活躍推進室の佐藤一絵室長から「女性農業者が輝き活躍することの意味」と題して講演いただいた。農業関連での女性の参画状況、女性が活躍することが農業経営にプラスになること、女性農業者向け支援策、農業女子プロジェクト等の紹介を頂いた。

次に、日高川町で農業を営んでおられる藏光綾子さんから事例報告頂いた。藏光さんには 2 年前にも発表頂いたが、今回は「都会っ子の農業 その後」と題して 2 年間に新たに始めたことなども紹介頂いた。

最後に農薬用保護マスク研究会による農業用マスク研修をおこなった。農薬専用マスクの必要性や適切な着用の重要性などを研修した。



佐藤室長の講演



藏光さんの事例報告



農業用マスク研修

農業士会支部活動レポート

REPORT

会員の研鑽と交流を深める事業の実施と 女性部会の活動

西牟婁地方農業士会連絡協議会事務局

1. 関係団体とともに“第24回SUN・燦紀南農業者の集い”を開催

8月24日、紀伊田辺シティプラザホテルにおいて、「かがやかせ！魅力ある西牟婁農産物」をテーマに、第24回SUN・燦紀南農業者の集いを西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会、西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会とともに開催し、関係者を含め約120名が出席した。まず、経営支援課から話題提供として、農地中間管理事業について説明があった。

研修会では、(株)キースタッフ代表取締役の鳥巢研二氏を講師に招き、「農産加工食品開発のポイントと地域農業の発展」と題して講演を行った。

鳥巢氏は、食品会社で調味料の企画・開発などに携わり、退社後に農産加工品の開発支援等を行う(株)キースタッフを設立、農林水産物を活用した地域6次産業化による地域おこしにも力を入れている。

講演では、「一般の農家が生産から加工、販売まですべて手掛けることは難しいため、地域で6次産業化に取り組むことが必要」と説明した。「地域の農家、加工・販売業者が利益を分け合うことで、地域が豊かになる。その取り組みの軸となる組織や人材が必要だ」と指摘した。また、直売所がある地域は農家が元気だといい、農家が自ら農産物を販売できる場をつくり、地域循環型の経済をつくる重要性を訴えた。また、食品業界の現況についても説明があり、菓子・ドリンクの分野が伸びているので、今後はそれらの分野で商品開発を行うことを勧めた。参加者らは熱心に聞き入り、農産加工と地域活性化に取り組むうえで、多くのヒントが得られた研修会であった。



研修会



(株)キースタッフ代表取締役 鳥巢 研二 氏

2. 女性部会活動の実施

①出前授業への協力

10月6日、西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会が、将来の消費者となる子ども達にウメの魅力を紹介することを目的に、田辺市立高雄中学校で出前授業を実施した。当日は、高雄中学1年生140名（4クラス）を対象に、ウメの講義とウメを使ったおやつづくりの実習を行った。

講義の時間では、ウメの生産量や品種、梅干になるまでの作業について説明した後、冷凍ウメを使ったジュース作り体験とジュースの試飲を行った。調理実習の時間では梅干を使った蒸しケーキと、ウメジュースを使ったウメ寒天を作った。参加した生徒からは、「パープルクィーンのジュースは赤くてきれいで美味しかった」「ウメ蒸しケーキもフワッフワで美味しい」と大好評であった。

地元の特産物であるウメについて学習した生徒達は、ウメの魅力と美味しさ、特に健康によいことをしっかり頭に刻み込んだようであった。



ウメの生産量、機能性、栽培のお話



冷凍ウメを使った調理実習



ジュース作り体験、試飲

②第28回田辺農林水産業まつりへの出店

11月8日、田辺スポーツパークで開催された第28回田辺農林水産業まつり（主催：田辺農林水産業まつり実行委員会）に、女性部会が出店した。チャリティー販売として「梅ひじきご飯」を出品し、売上を岩間女性部会長からまつり実行委員会へ手渡した。また、芋もち、松茸ご飯、みかん等農産物の販売も行い地元産の農産物のPRも行った。



チャリティー販売

農業士会支部活動レポート

REPORT

東牟婁地方農業士会の活動について

東牟婁地方農業士会事務局

1. 農業士「食育」ナス収穫体験の開催

東牟婁地方農業士会が中心となって9月7日那智勝浦町立宇久井小学校3年生16名、9月14日同立勝浦小学校3年生56名を対象に那智勝浦町太田地区で収穫体験を実施した。

「太田のナス組合」組合員（東牟婁地方農業士会会長の杉浦仁氏、青年農業士の松本安弘氏、青年農業士OBの平松宏規氏）からナスの特徴や栽培方法について説明をした後、児童達は収穫するナスの大きさやハサミの使い方を聞き、収穫作業を行った。

両日とも天候に恵まれ、児童達はほ場内に散開し、大きなナスを1人5個収穫した。

収穫後、JAみくまの太田営農センター集出荷場で、組合員が指導する中、各児童が収穫した中から3個のナスを選び、事前に生徒が思い思いの言葉を書いたポップとともに袋詰めされた。

その後、児童達から「どんな虫が付きますか」「花が咲いてから収穫するまでは何日かかりますか」など多くの質問が出され、組合員がそれらの質問に答えていた。

袋詰め後には、ナスの流通について説明があり、近隣の小売店などで販売されることを知って驚くとともに、農業について関心を深めていた。



ナスを収穫中



袋詰めされたナス



袋詰めを指導する農業士

2. 東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会と共に農産物即売会の実施

11月28日、第39回那智勝浦町農産物品評会会場の那智勝浦町体育文化会館において東牟婁農業青少年

クラブ連絡協議会（会長 石田大士、会員 10 名、以下 4 Hクラブ）による農産物即売会が行われた。当日は、東牟婁地方農業士会杉浦会長はじめ、地域農業士、青年農業士、4 Hクラブ員は、早朝から会場である体育文化会館の屋外会場において、農産物や加工品の搬入、テントの設営などを行った。

晴天にも恵まれ、来場者も多く、即売会場のテントには多くの人たちが訪れ、会員が栽培した新鮮な農産物や加工品を買い求めていた。



即売会

3. 4 Hクラブ、普及指導協力委員との合同研修会

1月6日鳥獣害対策及び獣肉の利活用を目的に研修会を開催した。

農業士、4 Hクラブ員、普及指導協力委員ら 11 名が参加し、古座川町で鳥獣害対策への取り組みについて研修を実施した。

一枚岩鹿鳴館においてジビエバーガーを試食し、その後、ぼたん荘及び古座川町鳥獣食肉処理加工施設において古座川町産業建設課の細井氏から、古座川町における集落ぐるみの鳥獣害対策、ジビエの取り組み、ICT捕獲檻について説明を受けた。

防護、捕獲、「厄介者」から「地域資源」として利活用、古座川の清流鹿の商品化から販売促進や課題や今後の取り組みなど熱心に説明を聞き、有意義な研修会となった。また、シカ肉 100%のジビエバーガーは癖がなく美味しかったと好評であった。



ジビエバーガー



研修会



熟成室



二次処理室

農業関係制度の紹介

変わります！ 農業委員会制度

和歌山県農業会議

安倍内閣の掲げる農業改革の一環として、改正農業委員会法をはじめ関連法案が一括して成立し、平成 27 年 9 月 4 日に公布、平成 28 年 4 月 1 日から施行されます。

今回の改正は、農業委員の選出方法等の変更や「農地利用最適化推進委員」の新設、県農業会議の組織変更など、まさに組織が始まって以来の抜本的な改革です。それだけに、農業・農村に与える影響も大きなものがあると想定されます。

以下、改革の概要を紹介します。

なお、新しい制度の農業委員会が法施行日である 4 月 1 日からスタートするのは県内では紀の川市だけで、他の市町村は現在の農業委員の任期満了後から順次新体制になります。

1. 業務の重点化、役割は「農地利用の最適化」

これまでの農業委員会の業務は、農地の権利移動や転用などの許認可事務は農地法等に基づく法定事務でしたが、そのほかの農地利用の効率化や担い手対策などは「行うことができる」と定められていました。

これらの任意の業務が、今回の改正で「農地等の利用の最適化の推進」として当然に「行う」と定められました。つまり、担い手への農地の集積、耕作放棄地の発生防止・解消、企業を含む新規参入の促進など、今日の農政の最重要課題が農業委員会の義務的な業務に位置づけられたわけです。

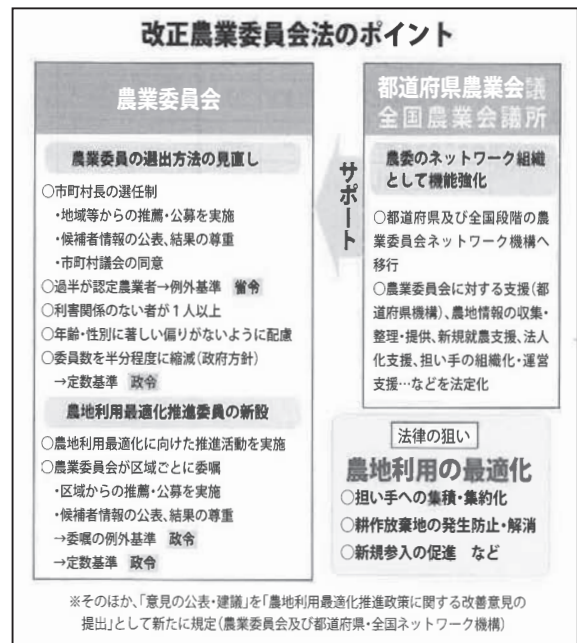
また、従来の農業・農民に関する意見の公表等は改正法では削除されましたが、新たに「農地利用の最適化の推進に必要と認めるときは、関係行政庁に対し、意見を提出しなければならない」とされ、行政庁は提出された意見を考慮しなければならないことになっています。

2. 農業委員の選出方法の変更

農業委員の選出は、公選制は廃止され、市町村長が議会の承認を得て任命する方法になります。その際、市町村長はあらかじめ地域の農業者や農業団体等に候補者の推薦を求め、募集も行います。その結果を公表し、尊重することが求められます。

農業委員の定数は、その上限がこれまでの半数程度となり、条例で定めます。

原則として農業委員の過半は認定農業者でなければならないことになります。(定数の 8 倍未満の認定農業者しかいない場合は、市町村議会の同意を得たうえで、認定農業者の経営に参画する親族や指導農業者、人・農地プランに位置づけられた中心的経営体などを「認定農業者に準ずる者」として取り扱うといった例外が



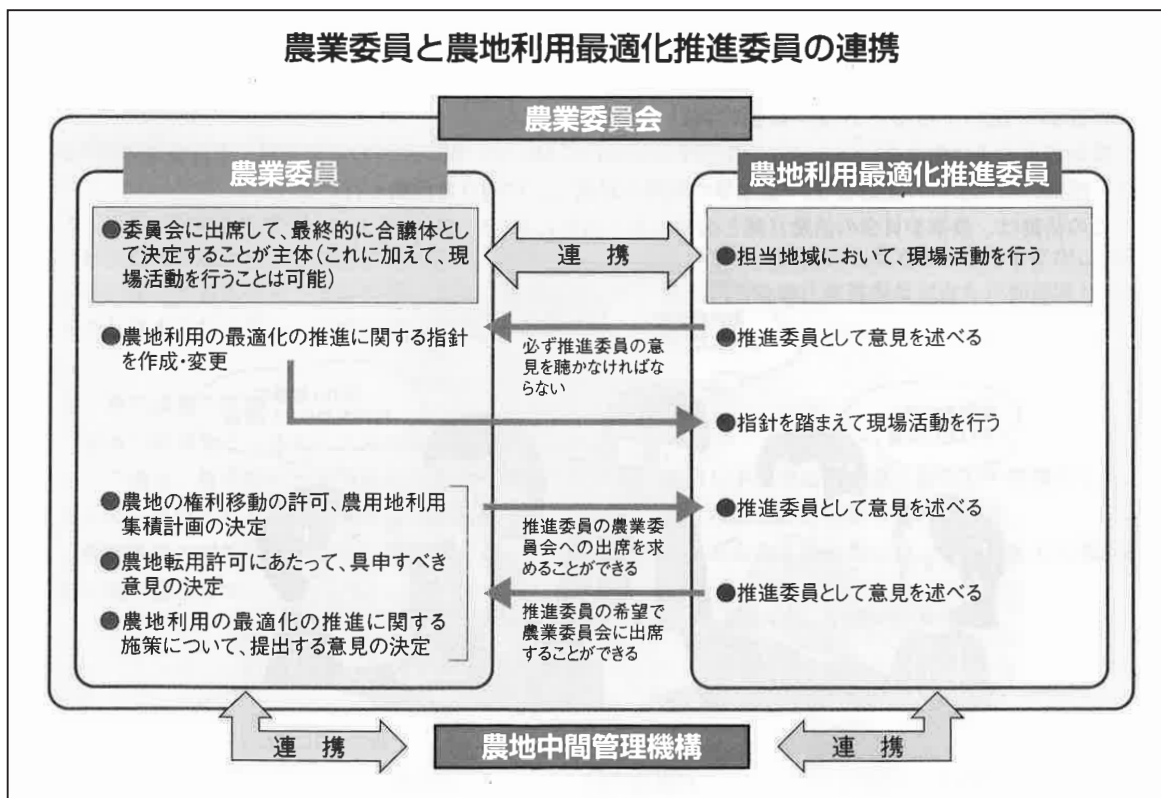
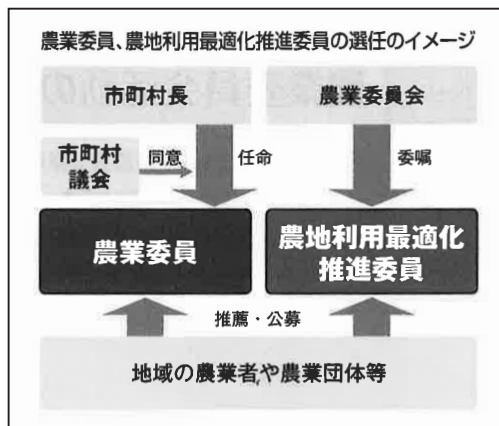
あります)

さらに、所掌する事務に関して利害関係のない者を1人以上含めることや、年齢、性別等に著しい偏りがないように配慮することが求められます。

3. 農地利用最適化推進委員の新設

「農地利用の最適化」に取り組む体制を強化するため、農業委員会は新しく「農地利用最適化推進委員」を委嘱します。同推進委員は、農業委員と同様に非常勤の特別職公務員で、担当地域において現場活動を行います。

推進委員は、農業委員会が区域ごとに農業者等から候補者の推薦を求め、希望者を募集し、その結果を公表、尊重します。定数は100haに1人の割合を上限として条例で定めます。



4. 県農業会議は「農業委員会ネットワーク機構」に指定へ

全国農業会議所と都道府県農業会議は、農業委員会の支援組織としての機能を強化するため、一般社団法人に組織変更し、新しく「農業委員会ネットワーク機構」として農林水産大臣又は都道府県知事から指定を受けることになっています。新体制は4月1日からスタートします。

(全国農業会議所発行「全国農業新聞」「ここが変わる！農委、農地制度」より一部抜粋)

農業士認定事業について

県農林水産業のリーダーを認定 ～ 平成 27 年度認定式を開催 ～

和歌山県農林水産部経営支援課

2月9日、和歌山市内のホテルで平成27年度の認定式を開催しました。

本式典では、県農林水産業の中核的な担い手でリーダーとして活動している82名（うち農業士は74名）の方々に認定証を交付しました。今回の認定によって、県内の農業士は874名となりました。



知事から認定証を交付

式典で、知事は「これからの和歌山県の農林水産業をどう発展させていくか、産業界にとって正念場。これから益々がんばっていただきたい」と述べて激励しました。これに対し、田辺市の指導農業士 谷本喜久さんが認定者を代表して「地域と農林水産業の活性化に向け、より一層努力することを誓います」と決意を表明されました。

また、今年度で定年を迎えられる指導農業士29名の方々には感謝状が贈呈されました。今回、農業士の認定を受けられた皆様、感謝状を受け取られた皆様は次のとおりです。



長年にわたり指導農業士を務められ、感謝状を贈呈された方々

農業士認定者の皆様（敬称略）74名

指導農業士認定者 22名

氏名	市町村名
吉本 久美	和歌山市
吉田 佳代	紀の川市
田村 八江子	紀の川市
妹背 克紀	紀の川市
光吉 敏一	岩出市
林 孝誠	岩出市
尾西 智子	かつらぎ町
御前 学司	有田市
上野山 良知	有田市
山崎 明	湯浅町
平野 栄樹	湯浅町

氏名	市町村名
的場 敏明	有田川町
平畑 信文	有田川町
瀧谷 元藏	有田川町
山崎 尊宏	有田川町
上田 真由美	日高町
森本 智行	印南町
月向 雅彦	みなべ町
鶴尾 安代	日高川町
谷本 喜久	田辺市
坂本 増巳	田辺市
山本 孝一	白浜町

地域農業士認定者 34名

氏名	市町村名
木戸口 記宏	和歌山市
泉 政行	和歌山市
山口 真幹	和歌山市
鷺岡 末穂	紀美野町
藪田 昌也	紀の川市
高橋 知子	紀の川市
台丸谷 久実	紀の川市
勢田 幸治	岩出市
藪下 喜美子	橋本市
木下 善久	橋本市
成川 正倫	有田市
岩崎 昌司	有田市
秋竹 俊伸	有田市
酒井 将秀	有田市
栗栖 豊和	有田市
崎山 忠	広川町
芝 崇文	広川町

氏名	市町村名
名原 靖博	広川町
石谷 彰浩	有田川町
山本 洋司	御坊市
竹輪 和弘	御坊市
野崎 康文	御坊市
小森 要	御坊市
矢野 嗣朗	御坊市
片山 綾子	由良町
岡 正樹	由良町
平野 博文	みなべ町
八田 和也	日高川町
柏木 真一	日高川町
松本 一寿	田辺市
山下 智之	田辺市
阪口 賢彦	田辺市
高畑 智矢	田辺市
田嶋 大輔	田辺市

青年農業士認定者 18名

氏名	市町村名
高岡 政充	和歌山市
櫻井 聡	かつらぎ町
山本 祐示	かつらぎ町
酒井 寛之	湯浅町
大西 健太	広川町
北原 有平	広川町
谷口 洋平	広川町
衣川 聖子	広川町
高垣 秀章	有田川町

氏名	市町村名
里地 芳卓	由良町
岡田 好浩	みなべ町
有本 陽平	みなべ町
更井 孝行	田辺市
行森 照明	田辺市
辻田 直樹	田辺市
寄本 裕貴	田辺市
中山 雄史	田辺市
安田 裕志	那智勝浦町

感謝状を受けられた皆様（敬称略） 29名

氏名	市町村名
中居 純三	和歌山市
吉本 好澄	和歌山市
橋爪 道夫	海南市
垣内 喜久子	紀の川市
小川 教雄	紀の川市
高岡 敏正	紀の川市
辻本 敏之	紀の川市
榎本 治行	岩出市
南條 悟	岩出市
平田 秀規	橋本市
守安 健次	橋本市
藤形 征悟	橋本市
水浦 言仁	かつらぎ町
寺下 勇	かつらぎ町
井阪 晴美	高野町

氏名	市町村名
上野山 和秀	有田市
佐原 洋一	有田市
鳥淵 永信	有田市
太田 直廣	湯浅町
原野 行雄	湯浅町
林 隆家	有田川町
三木 美和	有田川町
森本 知行	有田川町
東 幹男	有田川町
新田 辰雄	有田川町
坂本 憲昭	日高町
清水 正男	みなべ町
廣野 英幸	印南町
石田 光代	那智勝浦町

(参考) 農業士について

昭和51年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士(65歳まで)」「地域農業士(60歳まで)」「青年農業士(40歳まで)」の3つの区分がある。

平成28年3月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	161名(うち女性	27名)
地域農業士	561名(うち女性	63名)
青年農業士	152名(うち女性	2名)
合計	874名(うち女性	92名)



表紙の人

田辺市 指導農業士

谷口 文治さん

(和歌山県農業士会連絡協議会理事)

谷口さんは、梅、温州みかん、米、施設イチゴ主体の複合経営を営まれています。特に最近、梅の価格低迷もあって、水稲の収穫や乾燥の作業受託などを行い、経営の安定に努めています。また、野菜等は地元直売所や学校給食へ出荷しています。

平成27年度から普及指導協力委員としても活躍されています。

和歌山の農業士 第6号

発行日：平成28年3月

編集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印刷：有限会社 阪口印刷所



和歌山の 農業士

和歌山県
和歌山県農業士会連絡協議会

